

日記11

ウェイトレス

もうファミリーレストランが珍しくなくなってから久しいが、誕生した当時は、「良く教育された丁寧で元気なウェイトレス達」もポイントの一つだった。そしてその裏にはマニュアルの存在があった。最近はそのマニュアルが裏目に出て、「マニュアル通りの対応しかできない」と揶揄されるようになってきた。思えば客も贅沢になったものだ。そんなある店で、雰囲気的には「妻に先立たれたおじいさん」という感じの客が、注文したが今一口に合わなかったのだろう、たまたま通りかかったウェイトレスに、「おいしかったんだけど、今日はお腹が膨れちゃったから、悪いけど残すよ」と断った。そう断られたウェイトレスの反応が私は忘れられない。「はあ？」と言ったまま目は遠くをうつろに見ていた。そして数秒後には行ってしまった。でもその老人が店を出るときは元気に「またいらっしやいませ」と言っていた。目は相変わらずうつろであったが。この事象の原因の一端がマニュアルにあることは確かだろう。「客がお残しをするときの言い訳をしたときの対応」がマニュアルに載っているとは、およそ思えないからだ。でも私にはそのウェイトレスのうつろな、視点の定まらない遠い目が印象的であった。所詮は「ジッパチ」（1時間800円）なのである。提供した料理がうまかろうがまずかろうが、そんなことはウェイトレスにとっては知ったことではないのだ。繁盛しようが寂れようが、1時間そこにいて800円もらえばいいことなのだ。そしてもっと一般的に仕事とはそう言うものなのだ。ウェイトレスという、役務に直結する業態の人の行為であったためにひととき鮮烈に見えただけで、考えてみれば自分だって職場でうつろで遠い目をしているじゃないか。私はそのウェイトレスに自分を見ていた。

2004年03月18日 18時02分39秒

超新星

太陽のような恒星は、核融合反応によりエネルギーを周囲に発散しつつ次第に膨張していく。我々の住む地球も、今から数十億年後には太陽に飲み込まれてしまうと言われている。では、膨張した後どうなるか。膨張し尽くして核融合の燃料が消費されてしまうと、今度は膨張した元恒星が自分自身を支えきれなくなって、大爆発を起こす。これが超新星”SuperNova”である。短い間であるが高輝度の光を発する。そして元恒星は、宇宙の塵となって四散していく。ところが恒星がある程度以上の大きさを持つと(だいたい我々の太陽の6倍)、爆発の反力で爆発中心に元恒星の芯の部分が凝縮して、電子の反発力が押しつぶされて陽子星に、更にはパウリの禁則が破られて中性子星になる。これは非常識に重いもので、ブラックホールになる。ブラックホールは宇宙の特異点である。

2004 年 03 月 17 日 18 時 00 分 31 秒

デイトレーダー

昨年のクリスマスに、大阪の通天閣から札幌を山ほどばらまいた男が居た。その男は東京の有名国立大を卒業後、ある銀行に入行したが、何の資格もないと早晚リストラされるとの強迫観念に襲われて、自ら退社して公認会計士を目指した勉強を始める。そしてこの資格勉強をしているうちに財務諸表の読み方に精通し、いつの間にか、個人で株の取引を行って利ざやを稼ぐ、いわゆる「デイトレーダー」になっていたという。そして、一匹狼でデイトレーダーを行うこと数年、1億2千万円もの稼ぎがあったが、自分のやっていることが世の中に全く役立っていないとの空しさから、あの「暴拳」に出たのだという。結局は管轄署で厳重注意を受けて無罪放免されたが、本人は人生をやり直したいと行っているそうである。やり「直す」のは本人の勝手だが、どうもこの人、人生に対する甘えが根本的に直っていない気がする。まず、デイトレーダーは、自由市場を活性化させるという、見えざる神の手がなめらかに動くことに大きく貢献している。この認識に至れなかったことで、この人は間違っている。では、この人が見えざる神の手への貢献では手応えを感じることが出来なかったでしょう。感じる感じないは極めて個人的なことだから、仕方ない。だが、デイトレーダーに人生の意義を感じられなかった人が、普通の会社員になって会社の歯車になって、何の手応えを感じることが出来るというのか。どうせ手応えがないのなら、管理されることなく自由に

出来て、しかも短期に1億円も稼げるデイトレーダーの方がよっぽど割が良いではないか。断っておくが、デイトレーダーになれば誰でも1億も稼げるわけではない。むしろ借金だるまになる人の方が多いのだ。と言うことはこの人は、デイトレーダーとして才能があったことになる。その才能＝天職を捨てて、一体どうしようというのだろう。どうするのこの人の勝手だが、一通りやってやっぱデイトレーダーに戻った頃は、年齢的に旬が過ぎていて、今度は大損するのが落ちだと思う。知り合いのある神父が、「チャンスには前髪しかない」と言っていた。チャンスは来たときにつかまないと、通り過ぎた後ではつかむことができないのである。

2004年03月16日 18時01分02秒

そのまんま東

破壊的・非常識的行動で一時代を風靡した(北野)武軍団の中でも最もはやめちゃだった「そのまんま東」。その後児童福祉法に触れる行いをして芸能界から干され、芸能人生命も、人生その物も終わりに見えた。ところが実は、謹慎中に学問に目覚め、実力で(一芸入試でなく)大学に入って文学を修め、更に学識を深めるために、今度は政治経済学部にも再入学するという。数年前は週刊誌でぼろくそに言われた人が、今は同じ週刊誌で美談として紹介されている。人間どんなきっかけが人生の転機になり、新たな才能を開花させるきっかけになるのか分からないものだ。そう言う意味での生き証人である東さんに拍手を送りたい。私など、会社員ではあるが研究職という比較的勉強しやすい場所にいながら、そして勉強しようと思えばネタはいくらでも転がっているにもかかわらず、自分は鬱病ではないかと疑いたくなるほど、全くやる気が出ない完璧なうらぶれサラリーマンである。東さん曰く、「つかみ所のない芸能界にあって、学問は確実な拠り所、学問は決して裏切らない」そうである。そうであろう。確かに学問自体は裏切らない。芸能界にいればオアシスに見えるかも知れない。それを否定する気は毛頭ないが、うらぶれリーマンに成り下がった私としては、東さんに是非教えて欲しいことがある。そうやって学問を究めて、それでその次はどうするの、と。学問をそれなりに究めきったとき、少なくとも私の場合、あったのは達成感と言うよりも虚脱感、つまり「この程度か」という気持ちと、「おわっちゃって次にやることもないなあ」という気持ちのみだった。この気持ちは今後も変わらない

だろう。多分私には私なりの、「意外な転機」が必要なのであろう。その転機が一日も早く来て欲しいものだ。

2004 年 03 月 15 日 18 時 00 分 10 秒

マキアート

先日、最近店舗拡大が激しい、米国起源のコーヒー店「スターバックス」に行った。いつもならカプチーノ（泡が立ったミルクコーヒーで、名前の起源は「頭」（ラテン語だと“caput”）であろう）かカフェ・ラテ（文字通り「ミルクコーヒー」）なのだが、いつも同じだと飽きるので、スターバックスオリジナル商品とすることで、「キャラメル・マキアート」を飲んでみた。私はイタリア語は詳しくないが、「マキアート」の語源はおそらく、フランス語の“maquiller”（化粧をする、化ける）と同語源であろう。そして飲んだ感想は、とにかく甘い。ちょうどグリコのキャラメルを溶かしてホットにした感じ（ちなみにアイスもあるそうだが）であった。コーヒーも入っているかどうかは分からなかったが、あの甘みは、仕事に疲れたときなど効きそうな気がした。ちょっと病みつきになりそうだ。また入ったら飲んでみよう。

2004 年 03 月 14 日 17 時 58 分 03 秒

グレゴリオ暦

なぜ4年に1回「閏年」（うるうどし）があるのか。一言で言えば地球の公転時間に対する自転時間の比が整数でないからだ。公転と自転はそれぞれ独立の自称であるから、整数でないのはある意味当然と言える。で、整数でないとうなるか。日本でも江戸時代前、アラビアやイスラエルは現在でも使っている太陰暦の場合は月の動きを基本としているので、1月はだいたい28日で、1年は12月に十数日の「はみ出し月」が例外的に加わる。太陽を中心とした太陽暦の場合は、一年に4分の1日ほど季節がずれていく。わずか4分の1日ではあるが、100年経てば25日ほど狂い、350年ほどで春が冬になってしまう。そこで4年に1回「閏年」を入れて調節している。ところが先の自転公転比の端数は性格に0.25ではないので、更に100年に1回閏年

を取り消し、加えて400年に1回閏年を復活させている。コレヲグレゴリオ暦と言う。グレゴリオ暦で向後数万年は季節がずれない。では逆に、1日はどう決めているのか。天文科学はかつてのアラビアで大進歩したが、彼らが1日を12等分(24等分)して1時間とし、これを60等分して1分とし、更に60等分して1秒とした。もっとも現在では1秒は、セシウムをレーザー発振させたときの発振数を元に、より厳密に定義されており、世界に数カ所、「時間原器」が置かれている。

2004年03月13日 18時56分57秒

TFT

“thin film transistor”の略称。「薄膜トランジスター」。薄膜上にp型半導体とn型半導体を蒸着させることによりトランジスターを形成した物。液晶モニター(画面)の画素を操るのに用いる。液晶は一般に配向性を持った液状分子の事で、電極をかけると配向が揃って光を通し、電極を外すと乱雑状態に戻って光を透過させない原理で画素となり得、実際にこれを細かな画素の集まりに整形することにより液晶モニターを構成するが、この液晶の一つ一つを独立に制御するのにTFTが用いられる。即ちTFTに寄らない通常の方法で制御すると、しばしば隣の画素まで作動させてしまうので、解像度が悪くなっていた。これをトランジスター制御することにより、解像度を高めることが出来、大型の薄型TVを実用させることが出来るようになったのである。

2004年03月12日 18時56分10秒

島唄

琉球民謡の音階は通常の音階からレとラを抜いた音階で、世界的にもまれな音階であり、例の独特の雰囲気を出している。重要な文化遺産である。最近沖縄のバンドも、林賢バンドとか、ネーネーズとか、沖縄出身の本物がヤマトでも著名になるほど活躍している。私は個人的には”BOOM”が好きである。特に彼らが10年ほど前に大ヒットさせた「島唄」は最高だ。本当の沖縄人でなければとうてい出せない、渋い味を出して、沖縄の音楽ここに極ま

れりと言った感がある。「デーゴの花が咲き、風が嵐を呼ぶ」「島唄よ風に乗
り、伝えて欲しい、私の涙（わぐぬなあだを）」と言う歌詞を聴けば思い出す
人も多いと思う。今流行している沖縄系というと元ちとせとか夏川りみとかで
あろうが、前者はロックの影響を受けているし、後者は歌を作ったのが森山
良子なので、フォーク調というか、所詮は「精巧な偽物」という感じがして、心
から好きになれない。

2004 年 03 月 11 日 18 時 54 分 05 秒

未必の故意

武富士弘前支店焼き討ち事件の犯人が高裁でも未必の殺人が認定されて
死刑判決を受けた。ここで「未必の殺人」とは、「結果として殺人に至る可
能性があることを認識しながら」という意味であり、「結果として殺人に至る可
能性があることを確信して」の意味の「確定的殺人」よりも認識に於いて多
少は軽いもののやはり殺人に至る認識を持って行った行為とされる。より広
く「未必の故意」とは「結果の可能性を理解した上で意図して行った」事を示
す。故意のように結果について認識をすることはなかったが、通常の注意力
を働かせれば結果について認識できた場合を「過失」と言い、過失の中でも
特に重いものを「重過失」という。いわば「ぽかミス」である。故意・過失がな
い場合で、「善意に」とは、「不正の目的がなく、及び、不正が介在しているこ
とを故意・過失でなく知らなくて」の意味である。武富士事件の場合、未必の
殺人が認定されたこと、死傷者が多く出たこと、逆恨みであること、心神耗
弱が認定されなかったことから、死刑判決がおりたものと思われる。なお、
被告は直ちに上告した。最高裁に訴えるのが上告、高裁に訴えるのが控
訴、あわせて「上訴」と言う。

2004 年 03 月 10 日 18 時 53 分 05 秒

米国で運転する

米国で運転する場合、右側通行であることを除けば、運転規則は日本のそ
れとほとんど変わらない。もっとも右側通行に慣れるのにしばし時間が掛か

るが。私も交差点を左折したとたんに対向車線に入ってしまい、怒鳴られたことがある。あと、右折（日本の感覚であれば左折）の際は、信号が赤でも注意して右折して良い。むしろ積極的にこの行動をしないと、後続の車からクラクションでせかされる。あと、絶対やっていけないのは、夜中運転中の交差点での消灯。米国の交差点は一般に、日本のそれより暗く、ヘッドランプを転倒して積極的に存在を知らせないと、ぶつけられても文句は言えない。それから免許証。いわゆる「国際免許証」は日本の所定の試験場に行けば発行してくれるが、全く役に立たない。日本の免許証を携帯するのを忘れないこと。レンタカーから警察の検問まで、日本の免許証の方がまだ通じる。

2004 年 03 月 09 日 18 時 52 分 20 秒

GOTABORG

題字の横文字を見て何と読むであろうか。もちろん外国語と日本語で音が異なる恣意性は承知の上である。「イヨーテボリイ」と音記するのが一番近い。スウェーデン第3の都市名で、名門大学がある都市としても知られている。「ゴータベルク」と読んだとしても、英語かドイツ語だと思った人は仕方ないだろう。元々「ゴート人の町」の意味なのだから。民族大移動の名残を残した地名である。「berg」は「ベリイ」と読む。物理化学でよく使う「リュードベリ系列」のリュードベリも「Rydberg」と綴る。そもそもスウェーデン語でスウェーデンは、「Kongdom de Sverige」、「スベリイエ王国」であるし、この形容詞は「svenska」（スベンスカ）だ。スウェーデンには「dal」のついた地名が多いが、これは「谷」の意味である。フィヨルドの関係でノルウェイ「Norge」（ノルウェイ）にも多い。元大統領候補で駐日大使であったモンデール氏もノルウェイからの移民の子孫で、先祖は「Mundal」と名乗った。「dal」に当たるドイツ語が「tal」で、スイスにはこれのつく地名が多い。米国の貨幣単位である「dollar」も「tal」がなまったものである。米国では歴史の初期に於いて、「Joachimstal」で製造の銭を使っていたためである。

2004 年 03 月 08 日 18 時 51 分 48 秒

査読

ほとんどの学会誌は、論文原稿を投稿すると査読というプロセスに係ることになる。査読とは内容に誤りはないか、新規性があるか、表現が分かりやすいか、その論文誌に載せるほどの成果か等を評価するもので、分野が近い複数（例えば3人）の学会員に読んでもらい、その結果に基づいて総合的に判断される。一種の標準化、学会誌の質の維持のための作業である。私も査読を受けたことも査読をしたことも何回もあるが、「標準化」とは言いながら、実は査読者によって評価がかなり異なる。どうしても評価者の興味やバックグラウンドそれにしばしば人間関係も入ってしまう。私の博士論文の内容を投稿したときも、査読者2人がA評価、1人がC評価で結局通った。私の論文は、コンテンツの「博士号取得顛末記」で記したように、応用数学なのであるが、実施例として流体力学を使ったため、私に回ってくる査読依頼はほとんどが熱流動に関する物だった。これが、熱流動学者でない私の目には極めてつまらない。ほとんどにC評価（掲載不要）をつけて返した。その後それらが掲載になったか没になったかもフォローしていない。最近では査読をしても余計な仕事だし、評価にも謝礼にもつながらないので、査読せずに「分野違い」として返却している。

2004年03月07日 18時51分53秒

山本七平

もう亡くなってから10年以上経つので、ご存じでない方も多いかも知れない。キリスト教専門の小さな出版社を経営しつつ、得意の「ヘブライ学」を武器に日本民族の思考回路の特異さ、不思議さを見事に描いて見せた評論家である。私は若い頃イスラエル大使館に出入りしていたので（警備の厳重なあの国の大使館に一時は顔パスだった）、「あなたは理系だからやってよ」と言われて、山本さんの講演会のミキサー（音響調節）を何度か引き受けたものだった。そのおかげもあって彼の思想は良く知っているつもりだし、影響もかなり受けた。おかげで、一匹狼の群ない「日本人」として生き、日本人の、「ばれなければ平気で嘘をつく醜さ」にも対応できたし、「攻撃は最大の防御」を今でも最大の人生訓にしている。山本さんは、本が単なる商取引の対象でなく、知識の泉であることが身にしみていた古いタイプの出版関係

者最後の人であったように思う。当時さわがれた「イザヤ・ベンダサン」事件も、今となっては山本さんがその正体であることは明らかだが、大ヒットしてヘブライ学が人々に身近になったときでもあった。もっともユダヤ人のある友人は、「あの本はユダヤ人の著書では絶対にない」と断言していたが。「ほとんど良くできているが、聖書の『雅歌』が純粋な男女の愛の歌であるという解釈はユダヤ教では絶対に取らない」と断言し、憤慨すらしていた。私には意外だった。雅歌は翻訳で読もうがヘブライ語で読もうが、素直に読めば純粋な愛の歌である。あれを「教会への信徒の愛の比喻」と決めつけたのは「後世のキリスト教指導者達のプロパガンダ的押しつけ、人の猿知恵」、山本さんもイザヤ・ベンダサンもそう言っていたし、私は今でもそう信じているのだが、猿知恵の宗教的プロパガンダ解釈はユダヤ教の時代に既に行われていたとはね。宗教の危険な一面を良く表している。この辺は色々青春の思い出があるのだが、追々書いていくよ。

2004 年 03 月 06 日 18 時 49 分 49 秒

マルクス・レーニン主義

これほど異質な物が一把一からげで呼ばれている例も珍しいのではないか。善人で思想家というかむしろ夢想家のマルクスと、その思想のうち自分に都合のいい部分のみを引き抜いて自分の悪事・居直りの隠れ蓑として使った泥棒ノレーニン、言い換えれば、非現実的だが本当みたいなマルクスと、人間悪をことごとくさらけ出して現実をやったレーニン、明らかにマルクスは割を食っている。マルクスは若い頃数学や科学を学んだ。「マルクス数学草稿」という本まである。そしてマルクスが唱えた歴史観は、とどのつまりが統計力学の社会科学への焼き直し、しかも彼当時の素朴なサイエンスの社会科学化である。物は分子からなることよろしく、世界は個性の全くない人の集合体であり、小競り合いの後には少数の資本家は多数の労働者に敗北する。私はマルクス思想を、「思想界のフロギストン説」と呼んでいる。フロギストンとは「熱素」と訳され、当時そういう分子が存在すると、時代錯誤的に信じられていた。まさに夢想である。この子供だましの、しかしチョコレートのように甘い羊の皮を着た狼がレーニンである。彼は「革命に必要なのは1人の思想家と数人の泥棒で十分だ」とうそぶいた。自分はどっちのつもりだったのであろうか。そして羊の皮で人民を集め、国家泥棒という大詐欺をまん

まとやってのけた。そして「共産主義こそ絶対」と称して他の思想・宗教を禁止した。これに反対する者は精神病院かシベリア送りになった。人間には個性もなく、従って精神などは無意味なのであるから、精神病院と言っても実際は収容所であった。そして同じく精神のよりどころである宗教を、「宗教は阿片である」として禁じた。マルクスは新約聖書の使徒行伝にある原始キリスト共同体にヒントを得て共産主義を構築したというのに。そして、禁じた割には自分たちは内部抗争を繰り返した。その内部抗争は、まさに宗教界のそれと同じで、開祖マルクスの思想の解釈の是非の形を取り、闘争に負けた者は異端の烙印を押され、追放・粛正された。トロツキーがその代表である。つまりマルクス・レーニン主義は実質的に、理屈はともかく結局は、「信じるか信じないか」の2者択一を迫るネオ宗教であったわけだ。史上最悪の独裁者で、誰も信じなかったスターリンを生む素地はレーニンに於いて十分にあったと言える。この共産主義という歴史上の実験は、人類にとって幸運だったことに、失敗という正しい結果で終わったが、この様なふざけた「思想」が一時期たりとも現実化されてしまった責任を、マルクスとレーニンにそれぞれ何対何で負わせるか、今後二度とこんなほら・ばい菌が復活しないためにも、検証が必要である。

2004年03月05日 18時50分00秒

鉄の茶碗、鉄の椅子、鉄の賃金

かつての共産中国の官僚の身分がいかに安定かを端的に示した言葉。碗（食い扶持）、椅子（地位）、賃金（お金）が、どんなに仕事をしなくても絶対になくなる事を皮肉った言葉。特に解放路線前は「10億総役人」状態であったから、全員が「鉄の碗」状態だったわけだ。中国の歴史を振り返ってみると、それは不正と不公平の歴史と言って良い。「天道は微なり」、つまり、天の道が全うされることは極めて少ない、と言う有名な言葉があるほどだ。中国の歴史はその大部分に於いて、一握りの大金持ちと大多数の貧民の共存する歴史であった。だから中国に共産主義が根付く素地は十分にあったと言える。ところがこの共産主義たるや、建て前はともかく実際は、「正直者は馬鹿を見る」世界であるから、誰も働かなくなり、「10億総ド貧民」状態になった。そこで解放路線による社会資本主義を導入せざるを得なかったわけだが、とたんに「万元戸」と呼ばれる大富豪層が出現して、元の木阿弥

に返りつつある。世界の人口の4分の1を占め、「転んでも起きても世界が揺らぐ」と言われるこの国が、どうしてすぐ極端に走って中庸がないのか、国民性に依るのであろうが、困ったことだ。

2004年03月04日 18時46分58秒

アメージング・グレース

聞けば誰でも「ああ、あの曲」と分かる「アメージング・グレース」が、最近また、新作「白い巨塔」の主題歌としてリバイバルしている。数年前は宝石屋の宣伝に使われたこともあったが。この曲は本来賛美歌である。作ったのは18世紀の英国の奴隷商人であったジョン・ニュートンである。彼は当時、奴隷を運ぶ奴隷船の船長としてすさんだ生活をしていた。ところがある日、船が暴風雨に巻き込まれて沈没しそうになったとき、思わず神に祈ったところ、暴風雨から逃れることが出来た。英国に帰った彼はこの原体験を元に、改心して牧師になり、この曲を作ったと言われている。ちなみに1番の歌詞の意味は以下の通りである。「驚くばかりの恵みだ、私のようなならず者を救ってくださるとは。私はかつてはさまよっていたが、今は神に見いだされている。かつては何も見えなかったが、今は真理を見ている」。この歌詞まで「白い巨塔」の内容に関係があって選ばれたのか、私は知らない。

2004年03月03日 18時45分58秒

代原

編集・出版関係者の隠語で、「代理原稿」の事を略して「代原」という。つまり、本来掲載予定だった原稿が、作者の急病等で締め切り日に間に合わなかったとき、その代わりに穴を埋める代理の原稿である。駆け出しの作者に係る物が多く、どの週刊誌、月刊誌の出版社もジャンル等に応じていくつか持っているという。この代原の作者にしてみれば、いつ掲載されるか分からないと言う不安はあるものの、本来なら掲載されるほどの実力がないにも関わらず掲載される可能性があるのだから、嬉しいことでもある。掲載されればもちろん相当の著作権料が支払われる。似たような物に「代打ち」がある。こ

ちらはピンチヒッターのようなものだが、野球やスポーツに限らず、音楽など催し物であっても、本来の出演者が急病の時などに代役で出ることが出来る。「まちぼうけ」が多いが、それでも代打ちでチャンスをつかんで巨匠になった人もいる。ピアニストのホロビッツもその一人だ。

2004年03月02日 18時46分14秒

タケノコ族

私がまだ若い頃、タケノコ族というのが流行った。カラフルで奇抜な服を着た若者が、警戒でリズムカルな電子音楽に乗って自由気ままにストリートで踊り続ける。近所迷惑だったのかも知れないが、踊っている連中の顔はみんな輝いていた。彼らは目立ったし、目立つことも一つの目的だっただろうが、一番の目的は踊ってすっきりすること。夢がない、人生が見えている平和ボケの時代にあって、彼らの笑顔は私にはまぶしかった。眉をひそめる大人が多かったが、だからこそなおのこと一層、私はタケノコ族に入りたかった。だいたい暴走族なんかで憂さを晴らすよりもよっぽど健康じゃないか。でも、私が入る前に流行は廃れてしまった。タケノコ族の権化、沖田浩之も今はもう居ない。でもあの乗りの良い軽快な音楽、私は落ち込んでいるときなどつい口ずさんでしまう。

2004年03月01日 18時45分06秒

日記12

瞑想ヨガ

ヨガというのは、インド起源の心身鍛錬法である。ヨガというとアクロバットみたいな体操を連想させるが、あれは「ハタヨガ」といって、ヨガの一態様に過ぎない。もともとヨガとはサンスクリット語で「神との合一」（英語の”yoke”）を意味する一般名称である。そして合一の仕方は、ハタヨガのように体操によるもの、瞑想によるもの（禅に近い）、知識によるもの、薬によるものと多数ある。私どもはオーム心理教がヨガのイメージを悪くする前の一時、瞑想ヨガを習ったことがある。スワミ（師）はイシワラナンダと言って、出家した米国人、スワミの小話が有ってから、結跏趺坐をとって20分ほど瞑想をする。マントラ（真言）も唱える。今は一応キリスト教徒なのでもうやらないが、あのころは参加メンバーにいちいち個性があって面白かった。米国人のスワミ、世話係のジェーン、通訳で電機会社勤務のコータロ、コータロの「奥さん」（実際は違ったらしい）、「気違い」ユミ、派遣社員のアキコ、看護婦のキミエ、米国在住のサチコ、OLのタカコ、バツイチのコヅエ、ユダヤ人のイレーン、フランス人のカトリーヌ、小柄だけど7半を転がしているスギヤマ（女）、占い師の卵のキヨミ、東大出で日立社員のウラベさん、慶応出でソニー勤めのハシモトさん、日航務めのスガイさん、名誉教授のハガ爺さん、肛門科医師のコガネザワ爺さん、その他大勢、本当に楽しかった。それに比べ日本の教会メンバーのつまらないこと。全員魂を抜かれた人造金太郎飴で、人生の重みなどかけらもない。ほとんどゾンビだ。私はとても付き合う気になれない。

2004年04月08日 17時55分40秒

ユダヤ人のひげ

ユダヤ人はほとんどがひげを生やしている。これは、彼らが好きでやっているというよりも、旧約聖書の「顔にかみそりを当ててはならない」という戒律を守っているからだ。毎朝ひげをそらなくていいので楽に見えるかもしれないが、実際はひげの手入れのほうがよっぽど手間がかかる。聞いた話だが、あるとき日本の電機メーカーにイスラエルから、「刃を直接皮膚に当てない電気髭剃り機」製造の注文があったという。日本は複数のメーカーがこの発注に応じて試作機を作ったが、ユダヤのラビの厳しい検査を受けて、結局機種だけが採用になったと言う。そういえば日本の電機メーカーは某アラブ国から、わざとおこげができる電気炊飯器の製造依頼を受けたこともあるそう。文化の違いとはいえ、興味深い話である。

2004 年 04 月 07 日 17 時 54 分 45 秒

お役人様

若いころ仕事で、お役所対応をしたことがある。もちろん私一人でやったわけではなく、関係各部から人が出て、チームでやった。まずお役人は朝が遅く夜も遅い。国会開催期は特にそうだ。加えて時間にルースである。約束の時間を数時間待たされることもざらではない。で、たいていは夕食を囲むことから始める。夕食は当然民間持ちである。話を聞いてもらって会社に帰るのが10時過ぎ、それから直すから帰宅はたいてい午前様になる。夜がしらけていた事もあった。それから民間の個々の行政指導に対応するのはたいていはノンキヤリの若い兄ちゃん。ローマ字もろくに読めないのに、威張るのだけは一人前だ。その兄ちゃんをある日地下鉄駅で見かけたら、「少年マガジン」を読みふけていた。私は技術対応だったが、対応は渉外部出身者の役目。私が知っているだけでも、クレジットカードを渡して自由に使ってもらっていたが、いわゆるパンシャブ接待みたいなこともやっていたらしい。特に気を使うのは、その兄ちゃんの上司が出席する打ち合わせ。その兄ちゃんに花を持たせるために、わざと間違えた資料を用意しておき、指摘されて、「ハハー、恐れ入りました」とやって、花をもたせてやらないといけな。思い起こせばばかばかしい事ばかりだが、一方で良い人生経験になった。日本の世の中はこのようにできている。

2004 年 04 月 06 日 17 時 52 分 24 秒

なぜオームが消滅しないか

サリン事件を起こし、「宗教の隠れ蓑をまとった反社会的殺人集団」であることが明らかなオーム真理教が、これだけ多くの死刑判決者を出しながら、その教勢は衰えるどころか、かえって信者が増えていると言う。一体どういうことであろうか。いわゆる世紀末になって、日本全体が狂気に包まれているのであろうか。そう片付けるのは簡単であろうが、ここにはもっと深い、人間の本性に根ざした根本的な問題が潜んでいると、私は思う。人間の思考は元

来デジタル（非連続）思考とアナログ（連続）思考の2つがあって、これらのバランスの上に成り立っている。デジタル思考とは論理型の思考であり、左脳思考である。一方、アナログ思考とは全体観察型の思考であり、右脳思考である。ところが、ここ2世紀の科学技術の大発展により、世の中が大きくデジタル思考に偏ってしまい、それは、その偏りについていけない者はうつ病等精神的病に陥るほどである。そして人々は大なり小なり、魂のふるさとの回復として、アナログ思考、右脳的思考を求めているのである。そして、オームをはじめとするヨガ系密教や広くは東洋思想は、これら右脳思考に基づいているため、人間の郷愁を満たすところ、オームは特にこの点を強調したために、似非宗教でありながら民心を集約できたのである。言い換えれば現代の人々は、この似非宗教と言う「わら」にすがりつくほどに、右脳思考、すなわち素朴な人間的感情を回復したがっているのである。そこにオームが付け入る隙があった。現代がどれだけデジタル思考かと言うに、キリスト教異端である「物見の塔」（エホバ）という「デジタル宗教」が発生するほどに現代は病んでいる。デジタル思考には、数学物理をはじめとする諸科学はもとより、法学や文学と言った社会科学にまでしみこんでこれを支配するにいたっている。義務教育で習うのも、主要なところはデジタル思考である。つまりデジタル側には数学、論理学と言う強力な武器がある。だからオームに代えて、人々が魂の源を回復するには、数学や論理学に匹敵するアナログ演算が必要なのだが、これがまだ見つかっていない。一種の「ミッシング・リンク」であろうと想定している。

2004 年 04 月 05 日 17 時 52 分 03 秒

低温核変換

電気化学的手法（めっきのようなもの）で核融合ができると、米国の科学者が主張して、「常温核融合ブーム」が巻き起こってから早くも15年、結果はこれが本当に科学なのか、あるいはペテン師的錬金術なのか、結論が出ない案に忘れ去られようとしていた矢先、「今度は常温常圧で核変換ができる」と主張したグループが現れた。しかも今度の主張の震源地は、日本の三菱重工である。三菱重工基礎研究所のそのグループによると、パラジウム触媒中に核変換したい物質を担持して、ここに重水素を流すと、重水素が複数取り込まれて、より重い元素ができ、その際しかるべき発熱が観測され

たと言う。「核変換には MW 単位のエネルギーが必要なので、加速器等の大掛かりな装置が必要」と言うのが従来の常識であったので、にわかには信じがたいが、核変換は典型的な多胎問題であって、理論はないに等しい。その意味で絶対的に否定することもできない。一番喜んでいるのは常温核融合支持者たちで、「再び脚光＝研究費を」と意気込んでいる。今度の「お祭り」は、どの程度盛り上がり、どの程度継続するであろうか。

2004 年 04 月 04 日 17 時 52 分 47 秒

栄枯は移る

東海道線川崎駅裏口一帯、堀川町全部を覆う広大な敷地は、最近まで通称「東芝町」と呼ばれ、(株)東芝の工業団地郡が並んでいた。その広さは、その敷地内に、工場群はもちろん、宴会場や体育館等厚生施設まで揃っており、まさにひとつの有機体としての町の様を呈していた。この敷地が最近、電子機器メーカーの「キヤノン」(「キャノン」ではないので、念のため)に一括売却された。売却額は数百億円と言う。大きな売却物件である。重厚長大産業の代表でかつての日本経済を引っ張ってきたが、最近赤字に転落した東芝から、短小軽薄産業の代表で、成り上がって黒字続きのキヤノンへの一等地の転売、これは日本の産業の中心が、「どんがら物」から「ハイテク」へとシフトしてきた事実を象徴している。ちなみに製品1個の売り上げだけ見れば、ほとんど比較にならないはずである。今までここに通っていた東芝の機能と社員は、海側の不便な埋立地に移され、代わりに成長産業の呼び声の高いキヤノンが凱旋して入ってくる。下町・町工場のイメージの強い川崎市也大歓迎であろう。いずれはこちら側が「表口」と呼ばれるようになるかもしれない。まさに栄枯はめぐっている。

2004 年 04 月 03 日 17 時 51 分 58 秒

マギ

キリスト教、特に新教は占いを、「悪魔からのもの」として硬く禁じている。「神様はすべてを治めておられ偶然などない、と言うのがその理由だ。とこ

ろで新約聖書のルカ書にはキリスト誕生の際、救い主の誕生を星の動きで悟って、はるばる東方からこの幼子を拝みに来た「三人の博士」のことが詳しく記されている。ここで博士と訳されている元のギリシャ語は”magi”（マギ）であり、正確に訳すと「占い師」となる。「マギ」とは「マジック」の語源である。このように聖書では占い師はイエスの誕生とその権威付けに決定的な役割を果たしているのに、現代の新教ではこれを忌み嫌っている。ここにはすべてを合理主義で片付けようとする「パウロ神学」の影響を色濃く見ることができる。もっとパウロから離れた、柔軟な解釈を望むものである。なお、マルコ・ポーロによると、当時、今のイランあたりにこの3人のマギの墓があったと、東方見聞録に記されているが、現在は知られていない。

2004 年 04 月 02 日 19 時 09 分 32 秒

シャトルスキー

米国のスペースシャトルである「チャレンジャー」号が、着陸寸前に破断して空中分解した悲劇からまだあまり経っていないが、飛行機を見慣れた者にはスペースシャトルの、あのとても流線型とは思えない、一代前のバスのような格好には不思議感を覚えるだろう。ところで、米ソの宇宙開発競争は有名であるが、旧ソ連のスペースシャトルが、その形状において、米国のそれと瓜二つなのである。偶然にしては似すぎている。と言うか、これは明らかに設計情報を盗んで作ったものである。そこで、米国はじめ世界の宇宙開発関係者は、ロシアのスペースシャトルのことを皮肉交じりに「シャトルスキー」と呼んでいる。実際に見てみるとなるほどと思うよ。ほとんどデッドコピーなんだから。

2004 年 04 月 01 日 19 時 08 分 55 秒

猫の乾かし方

米国で本当にあった話である。あるおばあさんが子供代わりに猫を飼っていた。その猫ちゃんをお風呂に入れた後、ぬれた猫ちゃんを乾かすのに、おばあさんはひらめいた。「そうだ、電子レンジ(英語では”microwave oven”と言

う)に入れればいいじゃないの」。そしておばあさんは実行した。10分後、「出来上がった」猫ちゃんを見ておばあさんは腰を抜かした。かわいい猫ちゃんが茹(ゆだ)って破裂していたのである。当然だろう。電子レンジは水素の結合の振動状態を励起させることを通じて対象物に熱エネルギーを付与する機械なのだから、ほとんど水でできている猫ちゃんが真っ先に茹(ゆだ)ってしまう。これに怒ったおばあさんは、その電子レンジメーカーを訴えた。「猫を入れないこと」という禁止事項が明記されていなかったのが原因だと言うのが、そのおばあさんの主張である。そしてなんとそのおばあさんは勝訴してしまった。いくら訴訟社会の米国とはいえ、めったにありえない「珍事」である。

2004 年 03 月 31 日 19 時 08 分 36 秒

モーセの角(つの)

ルネッサンスの巨匠であるミケランジェロ(この人の名前は「大天使ミカエル」)の代表作である「モーセ像」には角が生えている。モーセに本当に角が生えていたかという点、そうではない。出エジプト記でモーセが神に会って「十戒」を刻んだ板をもらって帰ってきたとき、「モーセは光線(光線)で光り輝いていた」と聖書にある。問題はこの「光線」である。ヘブライ語で"keren"と言うが、この語には「角」という意味もある。そこで、誤訳により中世の聖書では当該部分が「モーセには角が生えていた」と訳され、ミケランジェロはこの誤訳に忠実に像を作ったのである。同じモーセを、ユダヤ人でヘブライ語が読めた20世紀の画家シャガールは、正しく光線で表現している。なお、この"keren"なる語には、「基金」という第3の意味も存在する。

2004 年 03 月 30 日 19 時 09 分 25 秒

WASP

歴史の浅いアメリカ合衆国であるが、「エスタブリッシュメント」と呼ばれる「エリートの条件」が存在する。この条件を一言で言い表したのが「WASP」、すなわち、"white", "anglo-saxon", "protestant" である。白人で、アングロ

サクソンで、プロテスタント(キリスト教新教の信者)という条件である。独立から建国にいたるまで、彼らがリードしてきたからである。最も最近、ヒューマニズム・平等主義・差別撤廃の影響で、公務員を中心に、ことさらにマイノリティーを一定割合で入れていこうという傾向に変わりつつある。

2004年03月29日 19時06分53秒

門綱目科属種

よく冗談で「私はヒト科だがあいつは猿科だ」などと言ったりするが、動植物の分類で、「科」は最小の分類ではない。上記したように、分類は「門」から始まり「種」が最小単位である。「門」としては、節足門、軟体門といったかなり広い範囲をカバーする。その下に「綱」があるが、通常の認識としてはやはり「科」が強い。「さけ科」「マス科」「キューリウオ科」などと、一般の認識レベルになる。「属」や「種」になると、かえって専門的にしか使われない。「おおくわがた」は「節足動物門」の「くわがた科」の1つの種である。ちなみに、人種の違いは「種」以下であって「亜種」のレベルである。科が同じくらいでは合いの子は生まれないが、種の違い程度だと合いの子は生まれうる。最近の遺伝子工学の発達で、分類学も生態学・形態学に基づいたものから、遺伝子の相似性の程度に基づくものに大きく塗り替えられようとしている。

2004年03月28日 19時07分50秒

フォトクロミズム

結晶や分子が、光(紫外線を含む)の照射によって光励起し、その構造や立体配座が変化し、その結果それまで無色であったものが有色になったり(光吸収体)、有色であってもその色が変わったりする現象。身近なところでは、一時はやった、暗いところでは透明だが太陽の下に出ると有色の紫外線カットグラスになる、一種のサングラスめがねがある。紫外線を吸収することにより、その紫外線を「動力源」として、紫外線をカットする物質であるから、「自励的」であり、フォトクロミズム現象の上手な使い方である。フォトクロミズム以外の光・分子現象の代表的なものには、蛍光・残光・蓄光(夜光塗

料)がある。現象事態は古くから知られたものであるが、その光励起・緩和過程の詳細は、最近の計算科学技術の進展により知られるようになったものも多い。特に励起状態についてのポテンシャル曲線は、数値解析でないと詳細を知ることができないからである。

2004年03月27日 19時06分17秒

トインビー

トインビーは死後もう30年近く経とうか、かなり忘れ去られた感があるが、歴史哲学上忘れてはならない大学者である。イギリス人で、長い間ケンブリッジ大学の教授を務めた。彼は若い頃ヨーロッパ各地を放浪し、特にギリシャの遺跡を目の当たりにして、「一体この文明の栄えは何のためだったのか」という素朴な疑問を得た。これが彼の歴史哲学の起点である。そして長年の思索の結果、敬虔なキリスト教徒であった彼は、「文明自体は滅びたものの、無駄に滅びたのではなく、素朴な地場宗教を世界宗教化するという重要な役割を担って滅んだ」という結論に至った。そして文明の衰退は多かれ少なかれ他民族との摩擦、交戦によるものだが、この摩擦、あるいはトインビー式に言えば「文明の邂逅」による異なった常識の対立とその止揚の過程で宗教は世界宗教化していったと説く。その具体例として、ユダヤ文明とヘレニズム文明の邂逅がキリスト教を、インド文明と中華文明の邂逅が仏教を、メソポタミア文明とアラビア文明の邂逅がイスラム教を誕生させたと例示する。以上のことはトインビーの思索のエッセンスを記述したものだが、その論証、つまり歴史にも法則が存在するということの証明に、彼は「歴史の研究」という大部の著書を残している。

2004年03月26日 19時05分21秒

馬

馬は音読みが「マ」、訓読みが「うま」、偶然にしては似すぎると思うだろう。その通り偶然ではなくて、馬は中国から輸入されるまで日本には生息していなかった。そして輸入される際に中国人の発音をそのまま借りて、「ま」と呼

んだ。白鳳時代のことである。その「ま」が発音のしやすさから、「んま」、「むま」を経て現行の訓読みである「馬」になったのである。似たような読みの音韻変化に梅がある。これも「め」、「んめ」、「むめ」を経て現代の「うめ」になった。

2004年03月25日 19時02分10秒

宇宙項

アインシュタインが「人生最大の失敗」と悔やんだ、確かにアインシュタインらしからぬ大失態により人工的に追加した項である。アインシュタインは、接続の幾何学（当時は絶対微分学）により「一般相対性理論」を完成したが、完成後間もなく、この式を宇宙に適用すると、「宇宙は拡大していく」という解釈が導出されてしまうことに気づいた（シュワルツシルト解）。そこで、この「非常識」な結論をうち消すために人工的に導入したのが「宇宙項」である。常識を覆すことにより破竹の勢いで発見を続けてきた彼らしからぬ失敗であった。この点はまもなく、「拡大していくことこそ実体ではないか」と気づいた天文学者ハッブルによって証明され、アインシュタインは自らの主張を取り下げる羽目になった。なお、ここでアインシュタインに一泡吹かせたハッブルもなかなかくせ者で、手間のかかる観測は出入りの下男に安い賃金でやらせ、自分はその上前だけピンハネしたという。

2004年03月24日 19時01分51秒

ウラディ

ロシアの地名を少々。ソビエト連邦崩壊とともに地名もずいぶん復古され、特に革命の立て役者達の名前が消えた。レニングラードもサンクト・ペテルブルクに戻った。このロシア第2の都市は、ピョートル（ピーター）大帝が北西の守り兼港として人工的に作った町で、都市の由来は「聖ペテロ（キリストの12弟子）の都市」という意味のドイツ語である。当時の更新国ロシアが先進国ドイツ（プロイセン）にあこがれていた名残である。首都モスクワの東にあるニジュニ・ノブゴロト市、これもソ連時代は「ゴーリキー市」と呼ばれてい

たが元に戻った。ニジュニとは「下の」の意味（"neither"）、ノブは「新しい」の意味（"new"）、ゴーロトは町の意味である。極東のほぼ不凍港であるウラジオストック、日本人は「ウラジオ」と略す（気象通報では今でもそう読んでいる）が、より正確には、「ウラディ・ヴォストーク」、「東に向かえ」（"toward east"）の意味である。文字通り東の果てにある。ボストークの名前は、ガガーリン少佐が最初に宇宙を周回した宇宙船の名前にもなっている。「ウラディミール」と言う都市もある。ここで「ミール」とはロシア語で「平和」の意味である。最後に「ペトロパブロフスク」、サンクト・ペテルブルクにこの名の要塞があるし、カムチャツカ準州の州都もこの名であるが、キリスト教の2大聖人である、ペテロとパウロを冠している。

2004 年 03 月 23 日 19 時 00 分 40 秒

雪国はつらいよ条例

ある有名な検定教科書が、雪国の暮らしを紹介するのに、「雪国はつらつ条例」というのを「誤植」して、「雪国はつらいよ条例」と表記して配布してしまったそうだ。誤記された新潟県の某村は当然のごとく遺憾の意を表明し、裏日本（彼らにとってはこの表現自体気に入らないそうだ）全体が嫌な思いをした。その教科書会社の社長がその村を訪れて陳謝し、無料で校正した教科書を再配布して、事件はとりあえず落ち着いたようだが、これは本当にうっかりミスの誤植であろうか。単純な誤植にしては出来過ぎていないか。私はこれを本当は愉快犯の意図的な過ちにとらんでいる。教科書の執筆者には名目的にはどこそこの名誉教授が並んでいるが、実際に担当するのは現場を預かる名もない教師達である。現場を預かっていれば、きれい事では済まないうさのネタがごろごろある。一度くらいかましてやろうととぼけたとしても、無理からぬ話である。で、やった人、うさは晴れたかい？

2004 年 03 月 22 日 19 時 00 分 01 秒

床屋の3色マーク

床屋と言えばあのくるくる回る、赤青白の三色マーク。あのマークは商標の世界では「慣用商標」と言う。カステラにオランダ船のようにだれでもが知っていて誰のものでもない、慣用的に用いられている商標である。あの三色マークの起源をご存じだろうか。実は人間の動脈、静脈、そして包帯を表している。なぜこの様な起源を持つマークが床屋を表示する商標になったかという、中世カトリック時代、床屋（頭の毛を剃る）は外科医僧の職務だったのだ。それで、外科医を表す方がよっぽど向いているような三色マークが、床屋の商標になっている。一方、医師を示す象徴と言えば、2匹の蛇が巻き付いた杖で、これは医学の祖であるヒポクラテスの象徴として始まり、現在に至っている。

2004 年 03 月 21 日 18 時 59 分 04 秒

やた坊

私どもが依然通っていた教会に、通称「やた坊」と言うお兄ちゃんが居た。牧師の息子で、子供の頃から話を聞かされてきたせいか、聖書の話はほとんどそらんじている。講壇の牧師が「サマ」と言えば、「ああ、今日は良きサマリヤ人の話ね」と、話は全て読めてしまい、残りは聞いていない。そもそも自分の父親の教会には行かずに、わざわざ隣の教会まで足を運んでくるのだ。出世期待度はことさらに悪くないが、表情に変化がなく、み言葉を聞いても喜びが見えない。ある時将来について聞いてみたところ、「牧師になる」と言う。とてもそんな感じはしなかったので、「どうして」と聞いてみると、「他になりたいものが無いから」と答える。「じゃあ、牧師には成りたいの」と聞くと、「別に。でも食っていかないといけないから」と投げやりに言う。果たせるかな数年後この兄ちゃんは父親について伝道師（牧師見習い）になった。さぞかしマンネリした説教をしていることだろう。典型的な「でも、しか」牧師だ。でも良くできたもので、通ってくる信者達はありがたがって聞いていると言う。日本人ってどこに行っても見てくれただけなんだね。

2004 年 03 月 20 日 18 時 57 分 57 秒

有機 EL 膜

EL とは”Electro-Luminescence”の略である。有機物あるいは遷移金属の混じった有機金属化合物（イメージ的にはプラスチック）であって、電場をかけるとその強さに応じて光を放出する物質である。基本的に芳香族系の余剰電子対、あるいは遷移金属の外殻電子が、電場のエネルギーで励起し、基底状態に落ちるときに、固有の波長の光子を放出する。液晶と似た役割をするが、EL 膜の方は、それ自体が発光するのでバックライトが不要で、より目によい、斜めから見ても色が変わらない、消費電力が少ないなどのメリットがある。イメージ的にプラスチックであることから分かるように、加工性も良い。将来液晶に取って代わると言われている。現在はまだ試作段階だが、京セラが量産を開始したり、東北新幹線で車内広告に使われたりと、そろそろ実用化し始めている。

2004 年 03 月 19 日 18 時 57 分 05 秒

日記13

右傾化の立役者

あの生意気極まりない「人質 3 人組」が解放されてから 2 週間経った。解放当時はぼろくそに言われて、「自己責任をわきまえろ」だの「解放経費を賠償しろ」などと言われていた。ただ言っていたのは主として保守派であって、共産党など左翼は、「英雄的行為」とか「政府の幹部が率先して自己責任に言及するのは何事か」などと反発していた。通常政治論争ならばこのまま平行線でいつか忘れられるのであるが、今回は違うようだ。あちこちであの 3 人組を「英雄化」しようとする必死の、組織的あるいは草の根的運動が息を

吹き返してきた。某 A 日新聞でも、「このままでは NPO 運動が瓦解する」だの、「3 人組は国際信義を高めた」などという論調が出始めている。だがもう遅い。ネットの諸所を検索してみると、圧倒的に「自己責任」論が強い。中には「国賊」とか「北のスパイ」説まである。特に注目すべきは、最近の政策の風向きを決めるキャスティングボードを握っている、無党派層、浮動票層、進歩人層と言われる人たちも多くが、「われわれの血税で奴らの解放費用をまかなうな」と言うほうに傾いていることだ。つまり、小泉政権は半ば綱渡り、半ば中央突破でイラク派兵を決議し、実行したわけだが、その当時の世論調査では「派兵反対」が半分以上を占めていたところ、今回の「共産シンパ 3 人組」の、会見すらしないことを代表とするふざけた態度、それ以前にさかのぼればいかにも共産シンパらしい傍若無人な態度と、そいつらに恩を売った小泉政権の巧妙な手法により、議論はいつの間にか「派兵は暗黙の前提」と言う位置に民意は移ってしまい、こいつら 3 人組は、こいつらの意に反して、派兵の既成事実化、しいては憲法改正に向けて民意を大きくカジ取りする役割、提灯持ちを演じてしまった形になっていることだ。こいつら 3 人組にとっては最大の屈辱、こいつら 3 人組を利用しようとしていた左翼にとっては大きな誤算となっている。私は学生時代から、いやいやながらではあるが、共産シンパや民青のアオムシの奴らを何人も知っているが、やつらには共通の、強いて言えば他人を全く信用しない自己中心な態度、目つき、つまり「エロ眼(がん)」ならぬ「アカ眼」がある。そして私はこの 3 人組に同じものを感じた。左翼筋が巻き返しに躍起になればなるほど、あり地獄よろしく小泉政権の思惑にはまっていく。この奴らが、その思惑とは対極に、小泉政権の提灯担ぎをしているとは、なんともこっけいだ。

2004 年 04 月 30 日 19 時 55 分 35 秒

琵琶湖

滋賀県のど真ん中を占める琵琶湖、この日本最大の湖は実は年に数 cm づつ北上していることが知られている。これは過去からのトレンドであって、今から数百万年前、琵琶湖は現在の伊賀上野の辺りにあった。これが北上して現在の滋賀県にある。琵琶湖は大きく、南側の大きくて浅い「南うみ」と、北側の小さくて深い「北うみ」からなるが、南うみは現在も浅くなり続けており、一方の北うみは深くなり続けている。現行の通りの移動を続ければ、

今から数百万年後、琵琶湖は日本海とつながり、やがて消滅するという。プレートテクトニクスなどと大きなことを言わなくても、身近なところで大地は変形を繰り返している。

2004 年 04 月 30 日 18 時 52 分 12 秒

追突

最近私の知り合いが、50cc バイクの女性が前を走っているトラックが急ブレーキを踏んだとたんに追突し、バイクは大破、女性は大怪我をしたのを目撃した。トラックのほうはほとんど傷も無く、乗員は無事、また急ブレーキの理由はそのすぐ前の車が急ブレーキをかけたためという。こういう場合に過失の割合や損害賠償はどうなるかを、その道に詳しい人に聞いたところ、追突はたとえどんな事情があろうと、また、追突したほうとされたほうでどれだけの大きさの違いがあろうと、原則として追突した者の一方的な前方不注意となるそうだ。理由は、追突に少しでも情状を与えると、世の中は天下御免、交通秩序は崩壊してしまうためだそうである。だからこの目撃された女性も、怪我の治療やバイクの買い替えは自費で、あるいは自分の保険でやるしかない。みんなも運転するときには十分な車間距離をとろうね。

2004 年 04 月 29 日 18 時 53 分 55 秒

燕雀（えんじゃく）

燕雀とは文字通りつばめやすずめのことであって、小さい鳥の代表、転じて志の小さな目先のこと、自分のことしか考えない人を示す。「燕雀いづくんぞ鴻鵠の志を知らんや」と言うことわざがある。ここで鴻や鵠は天をも覆うような伝説中の大きな鳥のことである。このことわざの意味は、「目先のことしか頭に無い小さな人物に、大きな志を持った偉大な人物の考えや行動が理解できるはずが無い」と、小物をあざ笑った言葉である。私も「自分は鴻鵠だ」と奢る気は毛頭ないが、私が一般相対性理論を応用して革新的な古典場（機械工学屋の分野）の計算方法を開拓して博士号をもらったとき、ほとんどの機械屋は理解が出来なくて遠巻きにしていたものを、やはり理解が出

来ないが機械学会の古だぬきと呼ばれた「長老」が「あれは機械工学ではない」と宣言したとたんに私に対する態度が傍若無人になったとき、「このトラの衣を借りた燕雀たちめ」と思ったものである。日本の学界は総じてこのように閉鎖的だ。外人は高く評価してくれた。

2004 年 04 月 28 日 19 時 30 分 54 秒

ポリイミド接着剤

ポリイミドとはイミド結合をもった物質が、重合作用によって連鎖的に接合して高分子となったものである。イミド結合はアミド結合(CO-NH :生化学では「ペプチド結合」と言う)と似ていて、“ CO-NH-CO ”(CO の部分は二重結合)なる結合をもった物質である。イミド系重化合物には接着剤として使えるものが多い。しかも瞬間接着でかつ高温に耐えうるので、金属の接着、プラスチックの接着、宝石の接着等多方面に使われる。商品名「アロンアルファ」にもポリイミドが含有されている。なぜポリイミドが瞬間接着剤になるかというと、第1に、液体として粘性も表面張力も低いので、被接着物質の奥まで染み入る、第2に、空気的作用によって化学変化して液体から固体になる、という性質を併せ持っているからである。なお、先に述べたように、ポリイミドは粘性も表面張力も低いため、木材を接着しようとしても木材の中にしみこんでしまっただけで接着層が出来ないため(特に低重合体)、ポリイミドのみでは木材の接着には向かない。

2004 年 04 月 27 日 19 時 31 分 55 秒

裁定

「裁定」という語には、分野の違いに応じて、異なった2つの意味がある。経済学で「裁定」と言うと、物価等が非平行な(同じものでも値段が違う)状態にあるときに、これを高いものは売らせ、安いものは買わせることにより、平衡状態に持っていこうとする働きを言う。英語の“arbitrage”(アービトラージ)の訳である。そしてかような働きに預かる取引を「裁定取引」と言う。経済状態が、裁定が十分に働いて静的状態になると、数値経済学の諸定理が適

用しやすくなり、経済分析がやりやすくなる。もうひとつの意味は法律用語で、利益の衝突状態を解消する行為を言う。例えば特許権は絶対的独占排他権で、特許権の存続期間中はその特許発明の実施を独占できるが、その特許権者が発明の実施を十分にやらなかった場合には、一般大衆はその発明の恩恵を被れなくなり、産業政策上かえってまずい。かような場合には、申し立てによりその特許権に強制的に実施権を設定させ、実施意欲のある第三者にその実施をさせることが出来る。かような折り合いのことを「裁定」と言う。

2004 年 04 月 26 日 19 時 29 分 38 秒

博浪の槌(ばくろうのつゐ)

今日の主人公は、中国は秦朝末期の張良という人物である。秦の始皇帝は、名を政と言ひ、始めて中国全土を統一した偉大な人物であつたが、自らを始皇帝、つまり中国の伝説的英雄である三皇五帝をしのぐ人物であると呼んだことから分かるように、統一後の政治は腐敗していた。これを怒った義人張良は、弥生(3月)のある日、博浪(ばくろう)において、通りかかった始皇帝の馬車をめがけて槌を投げ、始皇帝暗殺を試みた。なお、始皇帝暗殺を試みたのは張良が初めてではなく、その前に荊軻(けいか)が居るが、彼は惜しいところでしくじり、逆に殺された。張良の場合も惜しいことに、その槌は始皇帝の馬車には当たったが本人には当たらず、暗殺は失敗し、命からがら逃げ切る。その後、秦打倒の兵を、軍人の項羽と農民の劉邦がそれぞれ挙げ、張良は劉邦につくことになる。そして、項羽と劉邦の先陣争いは1歩の差で劉邦が先んじる。ところが、軍人上がりでプライドが高い項羽はこれが許せず、遅れて入った秦の都をことごとく焼き払った上で、劉邦に目通りするように強要する。この要求に屈した劉邦は、張良以下数名の部下を連れて、項羽の元に参じる。後に言う「鴻門の会」である。この会で項羽の部下が、剣舞を舞うと見せかけて劉邦を暗殺しようと試みるが、これを見破った張良が劉邦を手際よく逃がし、劉邦は一命を取り留める。劉邦は後に、楚の国に項羽を追い詰めるが(垓下の戦い)、この時の「四面楚歌」も張良の献策であつた。劉邦が中国統一して漢(前漢)を建国し、国は平和になったが、劉邦の死後、張良は劉邦の後であつた呂后に疎まれて左遷される。

2004 年 04 月 25 日 19 時 30 分 44 秒

武田と徳川

甲斐武田氏は、武田信玄の死後、帝王教育を十分に受けていなかった後継者の、武田勝頼の失策により滅亡するが、その武田氏の築いた戦術、戦略、治民政策、文化等は、実質的に徳川氏に受け継がれ、徳川長期政権の基礎を据えるのに大いに用いられている。例えば武家諸法度、この制度の原型は武田氏の家訓に見られると言う。また、主を失った武田家家臣の多くが徳川家に召抱えられている。例えば夏目漱石の先祖の夏目氏がそうである。他の例を挙げれば保科氏。高遠にあつて武田氏に仕えていたが、武田氏滅亡後は徳川の配下に移り、この保科氏に預けられたのが、後に会津に転封されて松平姓を名乗ることを許された、徳川秀忠の私生児の保科正之である。以来会津藩は徳川親藩の中でも特に幕府に忠実で、幕末に重要な役割を果たす。蛇足ながら、保科氏が転封した後高遠に入ったのは内藤氏で、この内藤氏の江戸別邸のあったのが現在の新宿駅周辺、江戸時代は「内藤新宿」と呼ばれたところである。

2004 年 04 月 24 日 19 時 25 分 58 秒

アキレスとかめ

「アキレスとかめのパラドックス」と言うのがある。つまり、駿足のアキレスはかめの後ろにて、この後を追いかけている。そしてアキレスが先にかめが居たところにたどり着いたときには、かめはもう少し前を行っている。そしてその地点までアキレスが着いたときには、かめはさらにその前に至っている。こうしてみると、アキレスは永遠にかめを追いつくことは出来ない、というものである。このけつろんは明らかに常識に反している。しかし先に述べたアキレスとかめの関係は、論理的に誤りが無い。ではこの矛盾をどう考えればよいのであろうか。答えは、「このパラドックスはアキレスがかめを、有限時間では追い越せない」ことを主張しているのではなく、「有限の回数で追い越すことが出来ない」ことを主張しているに過ぎない点にある。そしてここに

いう「回数」1回にかかる時間は、回数ごとに短くなり、無限回数を積み上げても有限の時間にしかない。その「有限の時間」こそが、アキレスがかめを抜き去るのに要する時間である。

2004 年 04 月 23 日 19 時 25 分 09 秒

第二量子化

通常の古典力学を基に、量子力学を構成するには、量子化という手段をとる。これは、まず古典力学の支配方程式を一般力学の形に一般化した上で、ラグランジュアンを通して正準量子化した上で、これをハミルトニアンの形にし、さらにこのハミルトニアンを関数でなく作用素として取り扱って、波動関数(状態関数)に作用させるという手順をとる。この手順により古典的な物理場(エネルギー、位置、運動量、時間、電磁場等)は量子論的な物理場になる。この手順を(第一)量子化と言う。第一量子化で通常の場合は量子化できるのだが、場(したがって粒子)自体の生成・消滅、相互作用等の多体問題を扱うには、(第一)量子化では十分でなく、場(したがって粒子)1つ1つを再度量子化する(数学的には「生成・消滅演算子」として扱い、全体場に作用させる)という手続きが必要である。この手続きを第二量子化と言う。第二量子化された演算子は一般的に非可換で、全体としてリー代数を形成することが知られている。また、簡単な例では、調和振動子列はエルミート多項式(級数)で展開されるが、この各項を一つ一つ量子化することに当たっている。

2004 年 04 月 22 日 19 時 24 分 20 秒

ピラニア

ピラニアと言えば、南米に生息する獰猛(どうもう)な魚で、豚や馬すらも食い尽くしてしまうことで有名だが、このピラニアが実は熱帯魚に近い種であることは、あまり知られていない。熱帯魚で最もポピュラーなのは「ネオンテトラ」と言う、背が赤く腹が青く光る、体調2cmほどの魚で、東南アジアで大量に人工繁殖され、輸入されるため、1匹100円程度で飼える、手ごろな入門

魚でもある。このネオンテトラ族（他にカーギナルテトラ等）を「シクリッド」と呼ぶが、実はピラニアはシクリッドの一種なのである。ただし獰猛な熱帯魚はピラニア位で、後はおとなしいので安心してよい。

2004年04月21日 19時22分50秒

月と太陽

私の家内がある高校で代用教員をしていたことがある。その高校はその地域では「並クラス」の高校であった。その高校の理科の期末テストの問題が振るっていた。第1問目:「月と太陽とどっちが大きいか」。第2問目:「月と太陽とどっちが地球から遠いか」。正直に言って高校生に出す問題とは思えない。私だったら「馬鹿にするな」と怒るだろう。ところがこの2つの問題の正答率がいずれも50%だったそう。つまり全員があてずっぽで決めていて、しかも中には、「太陽のほうが大きくて近い」などという訳の分からない選択をしていたことになる。私はあきれを乗り越えて、どわんと暗いものを感じた。「上には上がある一方、下には限りなく下があるものだ」という感想であり、「人類は実は危ういのではないか」という危機感でもある。ちなみにこの問題を出した理科の先生は、東大卒でありながら家庭の事情で帰郷して、出身県の教師になった人で、もう老境にあったが、もはやあきらめているようだった。世の中どこか狂っている。

2004年04月20日 19時22分47秒

メアリー・ジェーン

「メアリー・ジェーン」とは何を意味するかご存知だろうか。まず、英国スチュワート朝の皇女の名前ではない(笑)。一見変哲の無い、ありふれた米国女性の名前だが、実はこれが、法で使用を禁止されている向精神薬「マリファナ」を意味する隠語なのだ。理由は綴りが似ているから。マリファナはスペイン語(南米)で”Marijuana”と綴る。スペイン語なら「マリファナ」という発音になる。ところが麻薬天国米国の若者は、この綴りから”Mary+Jane”を導出し

たと言うわけだ。一種のしゃれだね。麻薬汚染は日本でも広がりつつある。この隠語で巧みに誘われないように注意してね。

2004 年 04 月 19 日 19 時 23 分 24 秒

この二人はお似合いだ

私の知るある教会に脳腫瘍をわずらう若い女性の信徒が居た。放射線治療など受けていたが、いずれは脳手術による除去しかないと言う。同じ教会に同じ年頃の男性信徒が居た。某大手メーカーに勤務していた。この教会の牧師がある日みんなの前で宣言した、「この二人はお似合いだ」。その真意はこうである。「私（牧師）は教会の権威の名の下に、お前（男性信徒）にこの女性を娶ることを命ずる。この命令に従えないならば、もはやこの教会に来てはならない」。こういわれた男性信徒は、結局この女性と結婚した。脳腫瘍手術は後遺症の可能性が高い。そのリスクも引き受けたわけだ。その女性は結婚後手術を受け、幸い、後遺症もほとんどなく（てんかん防止剤を服用する程度）、通常の生活はとりあえず出来ているようだが、この牧師の「命令」には、宗教支配の恐怖が典型的に表れている。この男性が結婚を決意したのが、教義に従順に従ったためか、あるいは帰属するコミュニティからの追放を恐れたからかは知らないが、小さな世界の「独裁者」の思い付きが、人の人生を決めてしまうのである。中世暗黒時代のミニチュア版が、ここにある。

2004 年 04 月 18 日 19 時 20 分 59 秒

イラク人質と自己責任

イラクの人質のうち「第1回分」3人が解放された。一応めでたいと言っておこう。そういわないと人格を疑われる恐れがあるからだ。本当は私は心から祝福していない。明白に危険があり、渡航自粛勧告が出ている今のイラクに、たいした思想も無く、単に「ちょっと行ってみたい」程度の出来心で、「善意」と言う衣の下、あるいは NPO という隠れ蓑の下で、ともすれば自己犠牲的英雄心に満ちながらも、わざわざ出かけた奴らの身勝手は、はっきり言っ

て怒りすら覚える。今回のケースは北朝鮮の拉致や日本赤軍の乗っ取りのような強制を伴うものでは全く無い。この点で同じ「人質」とは言いながら実態は天地ほどの違いがあることを、われわれ国民は認識したい。それを、解放されてなお、「まだ居たい」「もっと行きたい」などとぬかしているという。こんな馬鹿たちは見たことが無い。何をかいわんやである。これで、未解放の「第2回目」のジャーナリストたちに危害が及んだら、この、所詮は働かなくてもやっていける金満子弟のちょっとした物見遊山の奴らはなんと言いつけるのであろうか。冬山に登るのは一応自由だが、遭難したときの搜索費用（1千万円近いと言う）はその遭難者および家族が弁済することになっている。この登山家たちと今回の人質たちとどこが違うと言うのか。政府は次の選挙の思惑もあって、解放の努力をした。それ自体は仕方ないと思うが、今回の解放にかかった費用のうち1円でも税金から出すのなら、私は次の選挙で今の与党に投票しない。

2004 年 04 月 17 日 18 時 09 分 59 秒

重過失

「故意または過失」とよく言う。不法行為（民法709条、719条）の要件のひとつである。ここで故意とは「意図的に」「結果を予測・確信して」の意味である。これに対し過失とは、「相当の注意をしていれば結果を予測できた状態」をいう。要するに不注意な場合を指す。そして過失は立法技術上さらに、「重過失」と「軽過失（単なる過失）」に分けられる。重過失とは通常の注意を払っていたならば避けられた状態を指す。たとえば、素性の分からない者がおよそ流出するはずのないライバル会社の顧客名簿を持ち込んだ場合において、よく確かめもせずこれを購入して使用した場合がこれに当たる。単なる過失よりも重過失のほうが、当然過失として重い。ある弁護士は重過失の事を「ポカミス」と表現していた。

2004 年 04 月 16 日 18 時 08 分 55 秒

イエス・パウロ主義

以前に、「マルクス・レーニン主義」なる言葉の欺瞞、つまりレーニンが羊の皮をかぶった狼であり、とんでもない悪党であることを指摘したが、子の言葉と同じほど、異質なものを並列させることによりいかにも真実らしく欺瞞している言葉に、「イエス・パウロ主義」がある。ある意味より以上に欺瞞なことに、この言葉は通常単に「キリスト教」と呼ばれている。現存しているキリスト教、特に新教は、「エバンゲリズム」（福音主義）の名目の下、「イエスの教えを語る」とうそぶきつつ、実はパウロの教えを語っている。現状のキリスト教は、イエスの名を借用しながらも、パウロの指示事項を教条的に守らせる、一種のパリサイ主義に陥っている。うそつきである。うそつきには2通りある。「ペテン師型」と「気違い型」である。このうち、前者は自分でも実はうそだと知っている場合、後者はおろかにも自分で信じている場合である。多分「キリスト教」の場合、後者の型が多いであろう。カルバン派のある教会に至っては、パウロの書簡しか説教しない教会すらある。素直な心で聖書を読んでもみれば分かることだが、イエスの行いはみずみずしく、パウロの指示は干からびている。前者は神であり、後者はただの人だから当然である。この当然に多くの関係者が気づいていない。キリストに直接触れようとしても、馬鹿パウロの厚い壁が邪魔をして決して近寄れない。そしてこの壁を牧師たちはありがたがって説教している。その結果を見るがいい。信徒の大部分は生気を失ってゾンビ化している。早くパウロのとげを抜く運動が起こってほしいものだ。

2004 年 04 月 15 日 18 時 08 分 07 秒

回転ドア

最近子供が回転ドアに頭を挟まれて死亡するという、痛ましい事故が起こった。確かに回転ドアは常に動いており、子供なら骨折くらいはしそうだが、死亡とはなんとも痛ましい。ところでどの新聞記事を読んでも、検死結果、すなわちどのようにして死亡するに至ったかの解説がない。おそらくは遺族の心情をおもんぱかったのことであろうが、ここで素人なりに推測すると、窒息でなければ、頸椎骨骨折であろうと思われる。人間は首と言う細いものが頭と言う大きくて重いものを支えていると言う、きわめて不安定な構造にあり、首の骨は常時過酷な応力にさらされており、通常はこれに耐えうる構造となっているが、頸骨をある角度から斜めに曲げられると、いともたやすく折れる

角度がある。たとえば、つぐみのような小鳥を殺すのはいとも簡単で、4本指と掌（たなごころ）でつぐみの胸を握った上で、親指でつぐみの頭を後ろから押してやると、ほとんど力を入れなくてもつぐみは一瞬で死亡する。絞首刑も同じ原理で首に力が入るように設計されている。死刑囚の苦痛を最大限に小さくするためである。この子供もおそらくは同じ原理で瞬時に死亡したのであろうと推測している。

2004 年 04 月 14 日 18 時 05 分 24 秒

ハブの破損

最近 M 自動車のハブの破損が人災であることが明らかになって、社会問題になっている。このハブの破損については、ハブの正確な設計図を見ていないので断定はできないが、確かに破損しやすい環境下にある。まず、ハブとは車軸と車輪をつなぐ部分であるが、その役割上断面は、車軸は平行に、車輪は垂直になるために、どうしても直角に曲げる。問題はこの直角の曲げ方である。文字通り直角に曲げると、その曲げ部分に応力が集中するので過酷な条件にさらされる。通常かような場合は、徐々に丸く曲げる（俗に「Rをつける」と言う）のだが、車軸と車輪の関係上それが無理なのかもしれない。加えて車輪が回転するたびに短期の繰返し応力がかかることになるが、これがまた亀裂進展しやすい応力のかかり方なのである。だからハブ部分はこれらの条件に耐えられるほど肉厚に作らなければならないのだが、むやみに肉厚にすると過剰な回転モーメントとなって燃費がかかる。そこで工学的な適正設計をしなければならないのだが、M 自動車は最終的な安全試験を怠ったようである。

2004 年 04 月 13 日 18 時 06 分 19 秒

沸騰音

水をやかんなどで沸かしていると、沸騰する前に「ぶつぶつ」という音を立てる。これがなべや煮物だと「ぐつぐつ」と表現される。これは一体何の音であろうか。この音は実は「サブクール沸騰」と言って、水が沸騰する少し前に起

きるのだが、水が沸騰に近づくと、お湯のうちあぶられている部分が部分的に沸騰して泡（蒸気）になる。ところが沸騰の前であるのでできた蒸気の泡はすぐに冷却されてつぶれる。このつぶれるときの音が「ぶつぶつ」であり「ぐつぐつ」である。

2004 年 04 月 12 日 18 時 05 分 33 秒

ドナドナ

有名なユダヤ民謡に「ドナドナ」がある。「ある晴れた昼下がり、市場に向かう道、荷馬車がゴトゴト、子牛を連れて行く」で始まる歌である。この歌の歌詞は、対応する英語の歌詞をほぼ正確に訳したものであるが、いずれの歌詞でも「ドナドナ」のところはそのままなので、どういう意味だろうと言うことがしばしば話題になる。「牛を追う掛け声だ」と説明したサイトもある。答えから言うと、確かにこれ自体は意味のない掛け声なのだが、牛に係るものではない。なぜかと言うと、大元の歌はアシュケナージ（東欧系ユダヤ人）がイディッシュ語（ドイツ語、ヘブライ語、東欧語の混合語）で歌う民謡で、その歌詞はユダヤ人の「ハヌカ祭り」（ろうそくの祭り、ユダヤの故事に基づいていて、クリスマスのころ祝う）の際のハヌカを祝う歌であるからだ。このイディッシュ語の歌詞でも、該当部分は「ドナドナ」と歌っている。

2004 年 04 月 10 日 18 時 03 分 01 秒

セガとサミー

3大コンピューターゲーム会社の1つで、個性の強いカリスマ的な大川会長の個性で業績を伸ばしてきたセガが、最近の業績不振で、おもちゃ大手バンダイとの合併騒ぎで味噌をつけた上に、ついにパチンコメーカーのサミーに買収されて子会社となった。つい数年前には「セガのサターンを持っていた、任天堂のゲームキューブを持っていないのがナウい」とまで言われたり、渡辺専務の自虐的宣伝で話題を振りまいたところなのに、栄枯の早い業界である。一方、セガを買収したサミーの方も、パチンコメーカー大手であるが、パチンコ台というものが一昔前の機械式・手動式から大きく変貌して、

最先端マイクロチップの固まりになった。その意味で、パチンコ業界とゲーム業界はかなり類似の業界と言えるので、今回の買収で技術的シナジー効果も期待できる。しかしサミーも一方では同業者のアルゼから特許権の侵害で提訴され、昨年に総額60億円の賠償金を持っていかれた。それでもセガを買収できるということは、パチンコ業界がゲーム業界に勝ったということか。

2004 年 04 月 9 日 18 時 03 分 38 秒

日記14

罪刑法定主義

青龍会なる組織から架空の請求メールが送りつけられた話は前にしたが、このとき私は地元自治体の消費者センターに相談した。そしてその際に、「警察にも通報しましょうか？」と聞くと、相談員は電話越しに、「警察に言っても聞き置くだけ。実際に請求人が現れてあなたを脅迫しないと動いてくれません。もしそうなったら始めて通報してください」との返事だった。その時は、「なんだ、町の治安を預かる警察が、怪我してからじゃないと何もしてくれんのか。税金返せ」と思ったものだったが、良く考えてみれば警察は犯罪捜査の組織であるから、主たる法律は刑法、そして日本の現行の刑法は、戦前の特高の行き過ぎ逮捕の反省を踏まえて「罪刑法定主義」、つまり財刑は刑法等で明記されたもの以外を類推適用してはならず、しかも、殺人未遂のような重要な犯罪を除いて予備罪や未遂罪は刑罰の対象にならず、既遂犯しか刑罰の対象にならないのである。刑事裁判でも、裁判官は有罪との確信をもてない限り、「疑わしきは無罪」の原則で遂行されている。つまり、国民を国家権力の横暴から保護すると言う善意の立法思想が、この青

龍会なる詐欺・脅迫まがいの団体の安全を保障しているのである。法の予定しなかったところであろう。

2004 年 08 月 21 日 18 時 04 分 25 秒

ツーカー

携帯ではマイナーで、KDDI に身売りが決まっている「ツーカー」が先日面白い宣伝を打っていた。「携帯は通話とメール機能で十分だ、あとはいらない」という趣旨である。ちなみに同社のホームページにも同様の「宣言」がある。大手のボーダフォンやドコモの写真機能やプリペイド機能等新機能、多機能化に対抗した宣伝であろうが、正直言って笑えた。ツーカーの内部は火の車で倒産寸前、新機能開発の余力もない。そのないないづくしを逆手にとって、と言うか居直って、あの「いらない」宣伝なのである。居直るのは多分に勝手だし、資金がないのはかわいそうに思うが、もう少し遠慮がちに宣伝してくれないかな。

2004 年 08 月 20 日 18 時 04 分 01 秒

サリドマイド

サリドマイドはベンゼン環とピロール環を中心とした有機化合物で、人工合成可能である。60 年代には睡眠薬として多用されたが、これが胎児に奇形を催すことが分かり、使用禁止になるとともに、「サリドマイド禍」という社会現象を生んだ。それから 40 年、最近になってサリドマイドがある種の骨髄肉腫に効用があることが見出され、再度厚生省の認可を受けようと言う兆しにある。これだから薬学は難しい。ある時は奇形をもたらすものが、用途を変えれば抗がん剤になるのである。ましてや分子式を眺めていても、そのどの部分に薬理作用があるのか、抗がん剤の薬理部位と奇形のそれは同じなのか、皆目見当がつかない。そして例えば酸化チタンのように、同じ物質が触媒として、蛍光材として、表面加工材として等々さまざまな用途有しうるのである。そういえば、今は自律神経失調症の対症薬として使われている「ドグマチル」も、元は食欲亢進材であった。

2004年08月19日 18時02分56秒

クラバット

フランス語でネクタイのことを「クラバット」と言う（アメリカでもインテリ層には通じる）。この語はネクタイの起源を表している。すなわち「クラバット」とは、「クロアチアの」という意味である。最初にネクタイ（というよりもハンカチーフ）を首に巻きつけたのが、戦場に赴くクロアチア人だったからである。この時のクロアチア人の着用の目的は、無事に戦争から生還できた際に、妻に自分のことをより早く見出してもらうための目印としてであった。その後ネクタイは変遷を経て今の形になっている。夏の暑さの下では、不要に重い装備の代表格として、「排斥」されるに至っているが。

2004年08月18日 18時00分01秒

ユーレカとナイキ

昔アルキメデスが、当時の王から、職人の作った王冠の金に混ぜ物が使われていないか調べる方法を見つけよと言われて、入浴中にこれに気づき、裸のまま「分かったぞ！」と言って走り回った話は有名であるが、この「分かったぞ」はギリシャ語では「ユーレカ」という。この名前の都市が米国にはあるし、スポーツ用品メーカーもあったと思う。同じくスポーツメーカーとして有名な「ナイキ」、これは古代アテネがテルモピレーの戦いでペルシャに勝った際に、マラトンまで走った使者が叫んだ、「勝ったぞ」の意味のギリシャ語である。

2004年08月17日 17時59分21秒

曾我ノ宮

北朝鮮拉致被害者は、その存在は実はかなり前、むしろ事件発生直後から関係者には知られていたが、被害者家族が歴代首相に直訴しても、首相はおろか官房長官すら相手にせず、政府は「ほっかぶり」を決め込んでいた。この問題に政府が正面からの対応を始めたのは、小泉政権になってからである。法的に考えれば、確かにこの問題は、卑しくも主権在民のわが国にとっては、主権侵犯と言う重大問題であり、感情論よりも国際関係論として、毅然たる対応が望まれるべき問題であった。帰国した拉致被害者たちへの国民一般の対応は、相変わらずの感情論で、いつまでたっても性が懲りない日本人の国民性を如実に表しているが、マスコミもこれに呼応するように、拉致被害者に対しては腫れ物に触るような対応で、曾我ひとみさんがインドネシアで家族対面したシーンなど、マスコミは曾我さんのことを「曾我ノ宮」と呼んで、まるで皇族扱いだったと言う。笑うに笑えない話である。こんな中であって、小泉首相が自ら北朝鮮に行って拉致家族を連れ帰った際に、個人的には成果がなかったY夫妻が「最低の成果」と発言したところ国民のブーイングを買ったことは、やはり感情的とはいえ、拉致がすなわち聖域ではないことを示したと言え、肯首できた。繰り返すが、あくまでも主権侵犯・国際法の問題として取り扱うべきである。

2004年08月16日 17時58分30秒

確率論的犯罪捜査

今はもう廃れたが、かつて米国で、確率犯罪捜査という手法があった。例えばあるところで殺人事件があり容疑者が逮捕されたとする。その場合に、被害者がそこに行く確率、加害者がそこに行く確率、加害者がナイフを持っている確率等を積み上げて、「この事象が起きるのは数億分の1だから、この容疑者が真犯人である確率が高い」と判断する手法で、一種のPSA（確率論的リスク評価）である。そしてこの手の論証方法が操作において廃されたのは、例えばAさんとBさんがC通りですれ違って挨拶を交わす確率と言った犯罪と無関係な確率についても「数億分の1」と出てしまうからであった。この観点から見るとまさに「数兆分の1」と言える「事件」が先ほどあった。今から200年ほど前、江戸時代末期に大黒屋光太夫という人物がいた。紀伊の漁師で船が遭難してアレウト諸島のアムチトカ島に流れ着く。そして当時のロシアのエカチェリーナ女帝に謁見して帰国した人物である。こ

の人物の書いた書物が、廃棄物処理場のごみの中にあったふすまの敗れた陰からのぞいて、今にも焼却されそうになっていたのを、たまたまそこを通りかかった光太夫研究者が発見し、無事保護したと言うのである。奇跡としか言うほかはない。まさに「数兆分の1」の出来事であった。

2004年08月15日 19時01分58秒

アブドラ・カーン博士

最近、核技術者で、「パキスタン建国の父」と尊敬を受けてきた、アブドラ・カーン博士の化けの皮が次々に明るみに出ている。彼が尊敬に当たる人物どころか、とてつもない俗物であることは、このホームページでも以前に、同卿でノーベル賞学者のサラム博士を紹介する際に触れたが、彼はそもそも、欧州のウラン濃縮公社「ウレンコ」に採用されて、そのオランダ工場に従業するうちに、ウラン濃縮の機微技術を盗み出して忽然と姿を消し、オランダ政府から告発状が出ている。最初から機微情報奪取の確信犯だった可能性が強い。その後パキスタンに帰り、祖国にウラン濃縮プラントを完成させる。おりしもインドと犬猿の中にあつたときであり（今でも結構そうだが）、インドが核開発に先んじていたため、「祖国の父」と仰がれた。ところがその後彼が濃縮技術を、祖国に限らずイラン、北朝鮮、リビアなどに内々かつ個人的に売り渡していたことが明るみに出て、その俗物気をまりない人物像が明らかになった（もっともパキスタンでは依然として英雄あつかいかも知れないが）。彼がウレンコから盗んだ濃縮技術は「遠心分離法」と言ってどちらかと言うとローテクであり、だから三流国も「自国でもできそう」と注目したわけだが、関連して、最近ドイツ製の「アルミニウム管」が多数押収されたと言う記事に目が行った人は多くないのではないのか。たぶん多くの人が「単なる土管かよ」くらいの認識だったと想像するが、実はこのローテクの遠心法のネックは、縦長の管（先進国では最近ではCFRPを使う）の回転中の共振による破断である。そして管は、長いほど濃縮効率が良いが、反面共振破断の確率も高くなる。と言うわけでわざわざ先進国ドイツの会社でアルミ管を作らせたと言うわけだ。ウラン濃縮は核爆弾製造技術の第一関門で、かつNPT（核不拡散条約）の面からは押さえやすい。カーン博士が国際指名手配になるのも、時間の問題ではないか。

2004年08月14日 19時02分10秒

おじさんは忙しいんだ

夏休み、家族揃ってどこに行こう、嫁様が、娘の社会勉強のためにも遺跡めぐりが良いのではないかと思い立ち、近くの旅行代理店に交渉に行った。「三内丸山はどうですかねえ」「吉野ヶ里ツアーはありませんか」など長々話をしていると、次の順番を待っている人がいらしているのが分かったらしく、それまで一応丁寧な対応をしていた旅行取次ぎ責任者のおじさんが、「あのねえ、奥さん、夏の旅行と言えば泳ぐか食べるかどっちかなの。遺跡をめぐるとなると変わった人なんかいらないの」とお説教されて、資料を2, 3枚もらって、体よく追い返されたそうだ。「そうか、夏休みは食うか泳ぐかどっちかなんだ」、その話を聞いて、嫁様と同じく浮世離れしている私は、世の中の本音のローカルルールに接して、下手な定理の証明よりもよっぽど感動した。

2004年08月13日 19時00分07秒

M 理論

素粒子論で「超弦理論」が電磁力、弱い力、強い力、そして重力の4つの力を統一する理論として注目されて久しい。最近その上澄みとして、「M 理論」が究極の理論、すなわち統一がもっとも困難な量子重力理論をも統一する理論として注目され始めている。M 理論がその全容を明らかにされるにはまだ十年はかかるだろうが、私は個人的には楽観している。いや、楽観しすぎと言うべきかも知れない。そもそも超弦理論は、素粒子が点でなく紐であると仮定している、したがってこれが動けば2次元の複素多様体を形成することになる。複素数はそれ自体が2次元だから、計4次元である。それらの相互作用を考えれば8次元になってしまう。これに加えて、超対象性(SUSY)に起因する自由度が加わる。「これだけ自由度が底なしならどんな理論も入っちゃうよな」と言うのが私の感想である。つまり、M 理論は成功するであろうが、M 理論以外にもいっぱい、無矛盾な理論ができてくる気がする。加えて次元の高さ、仮に理論の正当性が認められても、こんな高次元幾何を扱

う理論にも乏しければ、計算機的能力も追いつかない。実用的には不作に終わるのではないか。私の予想が間違っていればいいのだが。

2004年08月12日 19時00分03秒

トマスの福音書

現在のキリスト教会において、福音書といえばマルコ、マタイ、ルカ、ヨハネの4書と決まっている。このうち前3者は、互いに似ており、「共観福音書」と呼ばれ、元となった1つのソースがあったものと想定されている。これらを聖典に選定したのは、紀元3世紀のカルケドンの宗教会議においてである。当時福音書には他にいくつか知られていた。書簡にも現行のいわゆる「パウロ書簡」以外にもかなりの書簡が知られており、そのうちのいくつかは、聖典には選ばれなかったものの、カトリックに置いては「外典」（アポクリファ）としてそれなりの地位を得ている。トマスの福音書は内容的には共観福音書に近いが、やや観念的である。観念的であるがゆえに、当時異端として排斥されていたグノーシス派が良く用いた。トマスの福音書を最近自分なりに読んでみたが、共観福音書と大きな違いはなく、なぜこれが聖典に選ばれず他の福音書が聖典に選ばれたのか、内容そのものからは峻別できなかった。もっとも米国の御用キリスト学者で日本語にも翻訳されているハーレーは、4福音書を褒めちぎった後で、トマスのそれをぼろくそにけなしているが、こういう色眼鏡からの視点は、学問的でないことはもちろん、現行のキリスト教自体を萎縮させる蛮行である。私が思うに、トマスの福音書が聖典から漏れたのは、ひとえに、につきグノーシス派が珍重していたので、宗教会議の教父たちに感情的な嫌悪感をもたらせたためだと思う。それ以外に理由は思いつかない。

2004年08月11日 18時59分20秒

ボビー・フィッシャー

ボビー・フィッシャーという伝説のチェス名人がいる。若いころから向かうところ敵なしで、全線全勝、負け知らずだった。天才と言って良い。ところがある

とき理由なく試合を放棄し、付箋負けして以来チェス界から姿を消した。そして数年後、「今のチェスのルールはつまらない。もっと面白いルールを考案した」と称して世間に姿を見せる。しかし世界チェス連盟は、その「新しいルール」が、本当に面白いのか否かを検討するまでもなくボビーを無視した。そしてボビーは、無視されたまま自己流のチェスが続けている。思うに本当の天才はかように孤高であると思う。ただ天才といえども飯を食わないといけな。チャンピオンのころは賞金で食っていたが、今どうやって食っているのか、知られていない。

2004 年 08 月 10 日 18 時 58 分 56 秒

UFJ ファイナンシャルG

UFJ の三菱 F グループとの合併交渉がにわかに面白くなってきた。まず、住友信託銀行の協議中止の仮処分申請が通って凍結された。これは判決でなく決定である（疎明しただけで口頭弁論もしていないので当然だが）。三菱側は異議申し立て（審査請求ではない）をすると予想していたら、やはり直ちにしたが、これも却下されてしまった。住友信託の合併交渉契約は私的自治に基づく契約であるものの、商法の法的拘束力を有すると言うのが理由である。そこで三菱は上級審に抗告手続をとると予想していたらやはりとった。抗告とは判決なら控訴に当たる行為である。この一連の法的手続きの最中に、住友信託の親会社である三井住友 FG が UFJ に合併を申し出て話はされにややこしくなった。私は素人だが、思うに、仮処分申請でけんかを売っておいて、「仲良く合併しましょう」はちょっと虫が良すぎるのではないか。合併する気があったのなら、住友信託の交渉権と言う「細い糸」をねたに手繰って、ひさしから母屋を分捕るような寝技に持ち込むのが上策と言うものである。加えて、抗告においてはこの、三井住友が色気を出してきたことも理由に追加するであろうから、判断材料が地裁の場合とかなり異なってくる。今後の成り行きが楽しみである。

2004 年 08 月 09 日 18 時 58 分 11 秒

電子レンジ

電子レンジは今やどの家庭にもあると思うが、米国へ行って”electric-range”などと言っても通じない。英語では”microwave-oven”と言う。この語のほうが実態を表している。電子レンジの原理は、放電管で遠赤外の電磁波を放出し、この電磁波が水(H₂O)の水素の結合の振動状態を励起し、この励起が緩和する際に熱を放出することにより対象物を加熱する装置である。だから、水を含んでいない対象物は、電子レンジでは加熱できないが、逆に水を含んでいれば、外からの伝熱加熱と異なり、内部からも一様に加熱される。最後に、ターンテーブルで回す理由であるが、電磁場はマックスウエルの電磁方程式（簡単にはフレミングの法則）を見れば分かるように、力関係が ROTATION で定義されているために素直に直進せず、電磁場を一様に作ると言うことが事実上無理だからである。

2004 年 08 月 08 日 18 時 57 分 08 秒

リーゼンフーバー神父

先日も書いた、西田幾多郎の著作全集を取り寄せたところ、編集者 4 名の中に、クラウス・リーゼンフーバー神父の名前が載っていたので、懐かしくなった。神父は長年、イグナチオ教会（上智大学）所属のイエズス会の神父である。ドイツに生まれ、学業の誉れ高く、20 歳そこそこで哲学博士号を取得して日本に派遣された。そもそもイエズス会は、イグナチウス・ド・ロヨラの創立になり、学業をもって神に近づくことを旨としているため、優秀な神父が多いのだが、リーゼンフーバー神父はその中でも特に光っている。専門はトマス・アクイナスを中心とする中世キリスト教哲学史で、既にいくつかの著作がある。中世キリスト教と東洋哲学者西田幾多郎、一見何のつながりがあるのかとも思うが、中世キリスト教はトマスのころから神秘主義的傾向が出、結果的に東洋思想と根底で通じるようになってくる。この傾向はトマスの弟子の、通称「マイスター」エックハルトにおいて徹底化し、「例えば、被造物は神の中にあり、神は被造物の中にあり、したがって神は日々生起されている」と言った説教を語るようになる。エックハルトは死後に異端の烙印を押されたが、東西融合の時代にあって見直されている。おそらく神父も良くご存知だろう。この辺に神父と西田の接点があると見た。ちなみに神父は参禅も

実践しているとのことで、私が神父に最初に会ったのは、もう 20 年近く前に友人の結婚式の仲人としてであったが、神父が来られたとたんに、一陣の清涼な風が吹き、あたりを清めたのを今でも覚えている。現代にあって真の師である。

2004 年 08 月 07 日 18 時 55 分 51 秒

ランタニド収縮

ランタニドは周期律表では表から隠れて欄外に列挙されるが、原子番号58のセリウムから、ユーロピウム、ディスプロシウムなどを経てルテチウムに至る、計 14 個の元素列である。K 殻、L 殻、M 殻はすべて電子が詰まっており、N 殻はd軌道まで、O 殻はp軌道まで満杯で、N 殻の f 軌道の電子が順に増えていく。N 殻のf軌道ともなると結合性にはたいした影響を及ぼさないで、原子としての性格は互いに似ており、分離が難しい。原子価は複数取りうるが、一般に III 価とされている。これらランタニドには、「ランタニド収縮」と言う面白いローカルルールがある。つまり、原子番号の増加とともに、核子数は増えるにもかかわらず、原子半径は返って減少するのである。これは、原子番号の低い原子では陽子と中性子の数は等しいが、ちょうどランタニドあたりから陽子数に比べて中性子数が多くなる傾向と関係があると言われている。つまり中性子が過剰な分だけその原子の核力が強まり、その結果原子半径が減少すると言うのである。では、なぜ原子番号が多くなると中性子数が多くなっていくのか。これは、陽子が三次元的に増えるために、これを結びつける中性子も、それらの隙間を埋めるがごとく、三次元的に増加する必要があるためと言われている。

2004 年 08 月 06 日 19 時 01 分 13 秒

篠爺(しのじい)

かつて第一次小泉内閣の財務大臣に「塩爺」と呼ばれた好々爺がいたが、うちの会社の先輩にも、これをもじって「篠爺」と呼ばれる爺さんがいた。当時は子会社の社長をやっていたが、これが塩爺とは正反対の癖のある性格

で、昔から部下がお守り役を押し付けあったものだった。好奇心は旺盛な人で、終局の場面では私が多分に「お守り役」だった。私のコンテンツの「札幌旅行記」に登場する人物である。日比谷高校から東大を出た人で、頭は切れた。元は機械屋で、がさつなものが専門だったが、特に最近流行のナノテクの話を聞きたがり、重厚長大企業では珍しくその方に知識があった私を呼びつけては、議論をしたがった。結果は半可通と言ったところだったが、まあ、自分にとってもほかにこの手の知識を披露する場もないから、それなりに楽しかった。その篠爺もよる年波には勝てず、今年の株主総会を機に引退された。今は要介護である奥さんの世話をする毎日だと言う。ナノテクの議論は、結果的には多分にマスターベーションで、なんの役に立ったわけでもなかったが、まあ世の中なんてそんなものさ。

2004 年 08 月 05 日 19 時 00 分 03 秒

不実特許

特許の内容が、何らかの理由で再現性がない、中身のない特許であるとしたらどうなるであろう。特許査定に当たって審査官はいちいち再現試験をするわけではないから、こういうことはありうる。理論的にはかような特許は、「産業利用性がない」として、特許法第 29 条 1 項柱書き違反で、同法 123 条 1 項 2 号の無効理由を抱えることになるのだが、いったん特許になったものを無効にするには、誰かが無効審判を請求しないと始まらない。しかし、特許無効審判を請求するのは、その特許があると特許の独立排他性により自分の事業の邪魔になるから請求するのであって、中身のない特許など無視すればいいだけだから、誰も手間隙かけて無効審判など請求しないだろう。一方その特許を有している会社、従業者にとって見れば、特許取得数はノルマであることが多いし、経営層への報告も、「この研究でいくつ特許を取得しました」と言えばそれなりに覚えもめでたいことだろう。と言うわけで、不実の特許は社会悪として、存続期間中生き残ることになる。世の中茶番は多いが、また一つ茶番を提供した。

2004 年 08 月 04 日 18 時 58 分 25 秒

西田幾多郎

西田は日本を代表する世界的哲学者であり、京都学派の祖でもある。西田の功績は一言で言えば東洋思想を西洋哲学に負けない立派な哲学として認知させたことにある。彼は昭和20年、すなわち戦争終結の年に没しており、その直後に全集が出たが、今年になって彼の全集が再度発行された。一般に東洋思想ないし神秘哲学をやるには一度は西田を通過すべしと今でも言われていることから、この全集発行はそちら方面の研究者には朗報である。そしてかく言う私も、一応妻の影響でクリスチャン（プロテスタント）ではあるものの、個人的にはプロテスタントを、「法王の権威を否定し、カトリック的伝承を否定し、と否定しまくったあまり、宗教性すらも捨て去ってしまった、たぶん倫理・修身に過ぎない、スープで言えば白湯（さゆ）のようなもの」と物足りなく感じていて、西田には期待していたので、早速全集を取り寄せて読んでみた。キーワードは「主客不分離」「矛盾的自他統一」である。読んでみて思ったのだが、西田の功績は、新たな思想を提示したことではなく、仏教やヨガに代表される東洋思想を、哲学の形に認知させたことであるということだ。例えばあなたが家を買ったとする。不動産の取得は登記が第三者対抗要件なのだが、登記には記載事項や記載方法に色々な決まりがあり、素人ではできず、結局司法書士に登記を依頼することになる。つまり、プロにはプロのやり方があり、そのやり方に従わない限りいくら「俺はやった」と力んでも、やったことにならない。しかし司法書士は別に家を建てたわけではない。これと同じく、西田は、東洋思想を哲学に位置づける仕事をしたに過ぎず、東洋思想を知りたかったら、正法眼蔵（道元）なり、往生要集（親鸞）なり、グルの書いた本を読んだほうが、よっぽど密度が濃い。この意味で西田は、もちろん偉い人だが、所詮は「哲学書士」と感じた。

2004年08月03日 18時58分32秒

アル・フワリズミ

古代ギリシャにおいて発達した科学・哲学が、そのまま直接にルネッサンスにおいて開花したのではなく、むしろいったんアラビアに伝承され、アラビアを通じて（直接には十字軍を通じて）ヨーロッパに持ち帰られたものであるということは、あまり知られていない。現在のアラビアを見ると、世辞にも科学

先進国とは言えないが、ヨーロッパが中世暗黒時代であった7世紀から13世紀の間、アラビアは科学先進国であった。そして多くの（日欧ではあまり有名ではないが）科学者を輩出しているが、その中でもっとも知られているのは、数学者のアル・フワリズミではないか。実際彼の著作がヨーロッパに紹介されるにあたり、彼の名前がなまって、「アルゴリズム」(algorithm、計算手順と言った意味)と言う語ができたくらいである。彼は現在のカスピ海沿岸のフワリズム地方の出身であったので、（おそらくは本名でなく通称として）こう呼ばれたものと思われる。ところで彼が生まれた後、彼の故郷であるフワリズム地方に強大な国家が生まれそして滅んでいる。「ホラズム（又はコラズム）帝国」である。国名もファリズムの地名から来ている。この帝国は、一時は現在のイラン、イラクのほぼ全部を領有するほどに強大化し、治世政策も悪くなかったのだが、不幸なことにチンギス칸の東征に逢い、武運つたなく滅亡の憂き目にあっている。大数学者アル・フワリズミとコラズム帝国、名前の上だけであるが、意外なつながりを発見するのは楽しいことである。

2004年08月02日 18時56分46秒

日記再開の辞

3ヶ月ぶりにこの「日記」を書くことになる。この間は「フォークダンス音楽」や「賛美歌」を入力していたためそちらが忙しかったり、公私ともども色々あり、日記まで手が回らなかった。もっとも日記のほうもそろそろネタ切れにあってきたということもあるが。だから、日記をここで再開したからと言って、今後は毎日と言うことではなく、飛び飛びになるであろう。もしこのシリーズに期待している方が居られるならば、どうかお許し願いたい。

2004年08月01日 18時56分14秒

日記15

あと1年で奇跡の年から100年

つまり、1905年が「奇跡の年」だったと言っている。どのような奇跡の年であろうか。それは、天才アインシュタインが、相対性理論、光電効果、ブラウン運動と言う、どれ1つをとってもノーベル賞級の発見を、3つまとめて解明した年なのである。そしてその2年後、アインシュタインは光電効果でノーベル賞を受賞している。理論化には厳しい（実験で実証されないともらえない）ノーベル物理学賞の傾向にあって、理論家アインシュタインのこの受賞は異例の早さである。もっとも、現在の視点から見れば、相対性理論の建設のほうがより大きな業績であると思うが、それにしても恵まれている。数学者のガロアの群論が、アーベルの代数学の不可解定理が、生前は世に認められなかったのと対照的である。一方で、これら現代物理学の夜明けを記念する年から間もなく100年であることも心に留めたい。その後の物理学の発展は目覚しいが、しかし、アインシュタインとシュレーディンガー（ハイゼンベルク）の引いた路線の上をいまだに外れていないように見える。孫悟空よろしくいまだに彼らの手のひらの上に居るのである。ところで、アインシュタインの天才性を「40歳くらいまで」とする有力な見解がある。その根拠として、彼らの業績の大きな応用である宇宙論に、アインシュタインが全く興味を示さなかったことが挙げられている。だが、私はそうは思わない。アインシュタインは宇宙論に興味がなかったのではなく、「超一般相対性理論（GUT）」の建設で頭がいっぱいだったのだろう。彼にとっては不幸なことに時代に先んじていすぎたが。

2004年09月19日 18時14分30秒

結跏趺坐（けっかふざ）

結跏趺坐とは、ヨガや禅での瞑想の姿勢で、足を卍に組み、背骨を正し、両手を伸ばしてひざの上に乘せる姿勢を言う。仏像などでよく見たことがあるだろう。ところがこの姿勢は、あらゆる必要な筋肉に適度の刺激を与える、

健康に良い姿勢などである。私も疲れたときや精神統一の際によくやるが、このポスチャーの健康のよさは、実際にやってみると良く分かる。古来の人々の生活の知恵である。寿命が3年は延びるし、寝たきり老人にならないこと請け合いだ。ところが私がこれをやっていると、クリスチャン（新約しかほとんど読まない、いわゆる「普通の」クリスチャン）の家内は、「宗教が違う」と批判する。おろかなことだ。ほとんど道徳でしかないプロテスタントのクリスチャンに何が分かる。かえって律法主義のきわみと言うべきだ。と言うわけで、健康で長生きしたい皆さん、結跏趺坐をしましょう。

2004年09月18日 18時13分22秒

大過なく

サラリーマンが定年退職や転勤をするときの挨拶で、判で押したように必ず言う言葉が「大過なく」である。でも果たして大過がないことはそんなに良いことなのであろうか。確かに大過があるよりは大過がない方が良いであろうが、それにしても、サラリーマンの仕事の仕方の基本は、受身と保身であると言う。つまり何もしないことだ。何もしなければ大過もないだろう。大過がないことはすなわちサラリーマンの基本動作に忠実であったということだ。だが見るが良い。この手の大過なく過ごした奴らが、引退して爺さんになってもなお、小心者で意地汚く、孔子の言った「70にして己の欲するままに従えど、その範（のり）を超えず」の世界に程遠い俗物たちであることを。サラリーマン大国日本は、こうして毎年何百万人もの小物爺（じい）を排出し続けているのである。人生一度きり、たとえリスクがあっても青雲の志を持ってチャレンジして生きたいものである。

2004年09月17日 18時12分29秒

歩道の雪かき

米国の家は日本のそれより大きくて、まず例外なく庭があり、その庭の先が歩道になっている。そしてこの歩道はもちろん個人の持ち物ではなく公道であるのだが、ここに雪が降った時に雪かきをする責任はその家の所有者に

あり、もし雪かきを怠って誰かが滑って転んで怪我をした場合、その損害賠償は家の家主がすることが常識になっている（これに対する保険まで販売されている）。ところが、金曜日の夕方から土曜日の夕方まで、それにもかかわらず雪をかかない人たちが居る。すなわちユダヤ人である。ユダヤ人はこの間はシャバット（神の休日）に当たるので、労働や作業をしてはいけないのだ（ちなみにユダヤの1日は、朝からではなく夕方に始まる）。この戒律の厳しさたるや、シャバットの間はエレベータのボタンを押してもいけないほどだ。原理主義ユダヤ人になると子供がおぼれていても助けない。だから雪かきなどするはずがない。ニューヨークは、別名「ジューヨーク」と呼ばれるほどユダヤ人が多く、彼らはたいていまとまって住んでいるが、彼らのユダヤ人街はすぐに見分けがつく。土曜日の朝に雪かきがされていないからだ。

2004年09月16日 18時11分44秒

教会スタンプラリー

著名な政治家で市民運動のさきがけであった菅直人氏が、人生の意味を問い直すと称して、お遍路のたびに出て以来、若者の間にお遍路ブームが起こり、今やデパートに行くと「お遍路グッズ」なる一揃えが販売されているという。もともとのお遍路とは、真言宗（密教仏教）の日本における開祖である空海の足跡をたどり、真言宗の寺の札を集める修行のことである。空海が主として四国で活躍したことから、お遍路といえば普通は四国のお遍路を指す。同じ理由で、四国には霊の力が強く、「四国には結界が張られている」と言う。結界とはこの世（此岸）とあの世（彼岸）を結ぶ界のことである。数年前に流行った映画の「死国」も、「四国に結界が張られている」という主題のテーマであった。さて、お遍路が密教たる真言宗の本質理解にどれだけ役立つかは一応置くとして、キリスト教にはこの手の自主参加型の「お遊び」が余りにも少なく、教勢が拡大しない一因となっている。教会に行っても牧師の紋切り型の（そして薄っぺらな）説教と、奉仕と言う名の強制労働があるだけで、何も面白くない。むしろ「ご利益宗教ではない」と言う言い訳の上に居直って、あぐらを書いている。そこで提案するのだが、日本の教会も、建物がそれらしい所をネットして、スタンプラリーでも始めたらどうであろうか。その位の遊び心がないと、日本のキリスト教はジリ貧である。今の若者にはキリスト教よりも仏教のほうが、むしろ新鮮に見えている。

2004 年 09 月 15 日 18 時 04 分 54 秒

アグニ

アグニとはインド神話に出てくる火の神、かまどの神である。インドは自国の開発したミサイルにこの神「アグニ」の名前をつけた。インド神話の神はしばしば、仏教を通して日本にも入ってきている。例えば柴又にもある「帝釈天」は、インド古代神話の最高神「インドーラ」のことで、周りに四天王（持国天、増長天、多門天、広目天）を侍らせている。アグニも「火天」日本には入って来てはいるらしいが、余り聞かない。ところでヒンズー語（サンスクリット語）は、印欧語族として、一つの語族をなしているため、共通の語根を持つ単語が多い。そして、アグニに対応する英語、それは、"ignite""ignition"である。イグニッションとは自動車の点火プラグのことであって、どちらも「火」の意味においても共通している。意外なところにつながりがあるものである。

追記：杉野実氏より、次の情報が寄せられました：Agnes という人名も同語源であると、松野道男『英和辞典にない語源情報』（南雲堂）にありました。聖アグネスは、キリスト教を棄教せず「火あぶり」にされた少女であるとのこと。

2004 年 09 月 14 日 18 時 04 分 17 秒

衣服の翻り（ひるがえり）

バイクに乗っている人のズボンのたるみ部分が、風を切る際にパタパタしているのはよく見かけるだろう。あれはなぜであろうか。旗の翻りだったら、風の吹く方向が瞬時瞬時に異なるからとして一応の説明はつくが、バイクの場合一方的に風を切るので、このような説明は成り立たない。また、衣類に風圧を跳ね返すほどの弾性があるとも思えない。これは一種の流力連成振動である。いま、衣類に弾性はないと言ったが、仮にあるとしても、風圧と弾性力のつりあったところで落ち着けば良いだけであって、弾性の有無は実は本質的ではない。むしろ衣類周囲の局所流れが周期的に変化するために、衣類の翻りが起こっているはずである。ではどのように流れが周期変化する

るのであろうか。私は以下のように推測している。まず、向かい風によって衣類は後方に押し付けられる。このとき風は衣類の脇を流線型に、本来の風速で巡航している。すると、比較的速い風速により、押し付けられた衣類の近傍が負圧になる。この負圧により衣類は引っ張られて翻り始める。翻り始めると主流の一部が翻った衣類の後ろに回りこんで流れを形成する。この回り込んだ流れが衣類をますます前に押し出し、その勢いで衣類は前方に翻る。ここまで翻ると今度は主流が衣類を押し付ける力が良く効くようになって、衣類は再び後方に向かう。以上の機構を繰り返すのである。正しくは数値解析してみないと分からないが。

2004 年 09 月 13 日 18 時 03 分 35 秒

アラブとイスラエル

アラブとイスラエルは現在犬猿の仲でテロの報復を繰り返しているが、この悲劇の循環の歴史は決して古いものではなく、むしろ本格的になったのは第二次世界大戦後である。中世にアラビア（イスラム教）に非常な力があってスペインまでその領土に納めていたころには、その中であってユダヤ人、ユダヤ文化も保護されて栄え、ユダヤ文化も中興期を迎えている。多くのユダヤ人がアラブの国で高官になり、しかもしばしばアラビア式に名乗っていた。ユダヤ神秘主義の最高峰と言われた「セーフエル・ハゾハル（光輝の書）」が著されたのもこの時代である。宗教伝説上も「ユダヤ人はアブラハムの子であるイサクの子孫、アラビア人は同じくアブラハム（イブラヒム）の腹違いの子であるイシマエルの子孫」と兄弟民族である。ただ、第二次世界大戦後に、それ前に委任統治していた英国の手際の悪さや政治的思惑に翻弄されて、パレスチナと言う1つの土地を奪い合う形となったため、関係が悪化した。この関係は宗教同士の戦い、あるいは民族同士の戦いであるが、より根本には2つの別々のコミュニティー（世俗集団）の「いす取りゲーム」であり、それに宗教的イデオロギーが吹かされて話がややこしくなっているだけである。

2004 年 09 月 12 日 18 時 01 分 53 秒

ネオサイエンス

20 年ほど前にいわゆる「ネオサイエンス」が流行った。今でも一時ほどの騒ぎはないものの、脈々と信奉者が居る。発想は、量子力学による観測の原理（古典力学と異なり、量子力学においては、観測という干渉行為が必ず観測対象に擾乱という影響を与える）が、神秘主義の主体・客体不分離の視点と根底でつながっており、神秘主義を極めることで理論物理学の進歩に役立てられるとする発想である。物理学者のフリッチョフ・カプラあたりがその代表格で、著書としてはまず、「ダンシング・ウーリー・マスターズ（踊る物理学者たち）」、続いて「タオ（道教）自然学」、「ターニングポイント」と続いていく。ホーホシュッターの「ゲーデル・エッシャー・バッハ」も広い意味でこの流れと捕らえることができる。ところでこれらの本には共通点がある。それは「分厚こと」である。神秘学は元来「不立文字（ふりゅうもんじ）」なのであるから、文字では説明しづらく、自然と厚くなる（それでもまだ説明し足りない）のは分かるとしても、物理学者の側から出たこの手の本が依然として厚いということは、まだ物理学としてよくこなれていないと言うことを物語っている。私個人的には、究極的には一行の式で表現されなければならないと思っている。ところで物理学側の呼びかけで 10 年ほど前に、物理学と神秘学の対話を促進する国際会議が開かれ、そこにはありとあらゆる宗教から代表者が呼ばれたものの、プロテスタントにはお声がかからなかったと言うことである。なるほどと思った。「プロテスタントは宗教ではない」と思っているのは、どうやら私だけではないらしい。

2004 年 09 月 11 日 18 時 01 分 02 秒

刑事部長と部長刑事

刑事部長というのは警視庁の要職で、警視総監、副総監に次ぐ「ナンバー 3」と言っても良い。大変な激務のポジションで、持病を悪化させて寿命を知事メル人も少なくない。これと良く似た紛らわしい呼称に「部長刑事」と言うのがある。別にこれは正式の地位名ではない。むしろこの警察署にも居る万年平刑事のことを、周りが持ち上げて「部長刑事」と呼ぶだけのことである。時には略して「部長」と呼ぶこともある。規律の厳しい警察であるが、この手の「住み着いた主」にはたちの悪いのも少なくない。所詮は人間、欲の

塊だが、年が行くとこれに押さえが利かなくなる。中には「最近読売新聞さんの酒を飲んでないなあ」などと、露骨に物品を要求する部長刑事さんも居るそうである。さすがに最近の官に対する厳しい目から、少なくなっているとは思うが、それでも警察とは依然として、「付け届けの役所」ではある。

2004 年 09 月 10 日 18 時 00 分 20 秒

四色問題

数学(トポロジー)の古くて新しい問題に、「四色問題」というものがある。これは、2次元上の地図を適当な境界線で「国分け」したときに、どのような国分けであろうとも、色が4色あれば国分けを図示できる(境界を接する国同士が同じ色にならない)、というものである。今のところこれに対する判例は見つかっていない。3色では塗りきれない例は容易に作れ、また5色だと十分なことは証明されている。面白いことに、2次元の地図が平面でなくて浮き輪の表面のような「輪」の形をしているときは4色で足りることが証明されているが、平面の場合はまだ合理的な証明がない。ここで敢えて「合理的」と言ったのは、計算機を使った「証明」はなされている。これは、地図の組み合わせを何千通りかで網羅し、そのすべてについて「四色で足りる」と示したものである。この証明のネックは、地図の組み合わせが本当にその何千通りで網羅されているかであるが、今のところ反例は見出されていないものの、網羅していることを正面切って証明するのは原理的に不可能である。それに、仮に譲って、網羅していたとしても、こういう方法では「なぜ4色なのか」という根本的な本質が見えてこないで、この定理をさらに学問的に発展させる余地がない。この点は数学として決定的な欠陥である。ここからは私見であるが、もしこの問題が、「何色か」と言う整数の問題から拡張されて、変数が実数を取ることができるような関数に置き換えることができれば、証明の道も開けてくるのではないか。例えば階乗。この概念は整数でしかありえないが、ガンマ関数によってすべての実数域に拡張可能である(念のために付け加えると、ガンマ関数が拡張であることは直ちに証明できるが、唯一の拡張であるかは分かっていない)。つまり、例えば「 $1.5!$ 」が算出できるのである。四色問題もこのような拡張ができれば、例えば、「臨界点は3.9だから4色で色分け可能」と言うような証明ができることになる。誰か試みてくださらないか。

2004年09月09日 17時59分54秒

街を作る

学生時代に友人だったイスラエルからの交換留学生が、しばらく音信が途絶えていたが、最近その彼の動向を知ることができた。彼は専門が建築学で、特に都市計画を専門としていたが、帰国後まずイスラエル北部のキリヤト・シモナに帰った。この町はレバノン国境にあって、かつて児童虐殺テロのあったマアロット村の近くであり、日々地下壕で、カチューシャ砲の砲弾におびえる日々だったと言う。その後彼は一家で、キネレット（ガリラヤ湖）の近辺に引っ越して建築事務所を開き、その周りの斜面地を有効利用して町を一つ作り上げてしまったと言うことだ。何事にもパイオニアであろうとするイスラエル人らしい活躍である。彼が日本に居たとき、「日本人は土地が狭いとぼやく割りに斜面を有効利用していない。発想の転換が足りない。」とよく言っていたが、その持論を実行したわけである。しがな社員をしている私は、友人だったイスラエル人の活躍に敬意を表した。そう言えば、彼と前後して日本に来ていたイスラエル人は、ぱりぱりのシオニストで、「自分は国に帰ったら、絶対にウエストバンクに入植するよ。」と言っていたが、こっちの友人の消息はいまだに途絶えている。

2004年09月08日 17時59分26秒

人口授精児の戸籍

先ごろ、死んだ夫が生前に精子バンクに預けていた精子を用いて人工授精した上で妻の子宮に戻すと言う技術を用いて出産した子供をその妻が自分の戸籍に嫡子として入れようとしたところ、管轄の地方自治体に拒否され、これを不服として裁判所に訴えを提起したが敗訴したと言う事件があった。この事件を見るに、その地方自治体の対応は「こうするしかなかった」という声明はその通りであると思う。嫡子とするためにはその夫と少なくとも200日前までに婚姻関係が存在しなければならないと戸籍法に明定されており、一地方自治体の窓口で法を読み替える権限などないからである。では

裁判所の判断はどうであろうか。一般に法律を支配する2大要素は、「実質」と「法的安定性(経済性)」である。つまり裁判所は、法を単に条文どおりに読むのではなく、その立法の趣旨に立ち返って条理判断をすることが許されているし、また、求められてもいるわけである。ところが本事件の棄却判決の理由は「そのような事態は法の予定するところではないから」と言うのが理由であった。当たり前である。戸籍法ができた時点では、このような妊娠技術は存在していなかったのだから。しかし今後はかような例が増加することは明かだ。であるならば、少なくとも判決文の一部に、「今後は技術的実態に即した法改正が望まれる」くらいの一文は入れられなかったのであろうか。私は法曹界がことごとく保守的で、法改正をためらっているとは思わない。現に最近も、総会屋対策として商法の大改正があったし、日進月歩のIT技術進歩に対応して、電子商取引法、不正アクセス禁止法など新しい法律が次々に制定されている。これらの分野に比べて、遺伝子工学関連の分野では法改正の歩みがのろいようである。倫理問題が絡んでいるため、慎重にならざるを得ないというところか。

2004年09月07日 17時58分10秒

CP対象性の破れ

素粒子論では、CPT(電荷、パリティ、時間)の積が不変であること、及びCPでは対象性が破れる(つまり保存されない)ことが、標準理論から導かれている。そしてCPのほんのわずかのずれに起因して、ビッグバン後に物質の量が反物質の量をわずかに上回り、この「わずか」のおかげで宇宙には何億もの銀河系を中心とする物質世界が存在すると説明されている。そしてCPの対象性のずれが起きるためには、素粒子は3世代でなければならないが、このことは現在までの実験事実と合っている。ところで最近、CPの「ずれ」が従来の標準理論から導かれる値よりもかなり大きいという実験事実が確認されつつあって、「標準理論のほころびか」などと大騒ぎになっているようだが、標準理論は極めてエレガントな数学的体系でできており、仮にCP対象性の破れが理論の预言値を越えるものであったとしても、おそらくは標準理論を根底から突き崩すようなものでなく、例えば光子以外の素粒子が質量を持つことの説明を南部・ゴールドストーンが「ポテンシャルのゲージ対象性のずれ」で行ったような、パッチワーク的な修正で、最終的には落ち

着くと信じている。そして素粒子論としてはそれでよいのだが、実は今回の結果は宇宙論にとっては、ニュートリノ振動と並んで、大騒ぎに値する事件である。現在宇宙は、ビッグバン後の慣性力で拡大しつつあるが、その拡大の速さは、重力による引き合いで徐々に減速されている。そしてどこまで減速されるか、つまり減速されるが膨張を続けるのか、あるいはある時点で収縮に転じ、最終的には一転に収束して揺らぎとして消滅してしまうのかは、ひとえに、宇宙にどれだけの物質が存在するかにかかっており、まだ結論を見ない問題だからである。宇宙論の側では今後しばらく、百家争鳴であろう。

2004年09月06日 17時57分21秒

ドナルド・キーン

ドナルド・キーン氏は、知る人ぞ知る日本文学の外人第一人者である。奥の細道をはじめとして、平安文学から近代文学にまで深く造詣があり、しかも彼が日本の書籍に投稿する、極めて高度な文学評論も、翻訳ではなく彼自身が直接日本語でしたためたものである。もちろん文章に不自然なところは全くない。その彼の公演を聴いたことがある。彼のスピーチは、もちろん通訳なしの日本語であったが、予想に反して、お世辞にも上手とは言えず、むしろ聞き取りにくさえあった。そこいらの工事現場に居る中東からの非合法労働者程度で、例えば川崎麻世の奥さんのカイヤやマリアンには足元にも及ばないものであった。日本人も害して英語は苦手で、有名大学に現役合格するような秀才でも英会話はからきしだめと言うのが多く、教育政策上の問題にもなっているが、この現象はどうも日本だけではないらしい。

2004年09月05日 17時56分45秒

芥川龍之介の棄教

日本文学上の鬼才である芥川龍之介は、一度は基督教に入信し、フランシスコ・ザビエルや聖ルチアの殉教等を題材とした、何編かの基督教小説を書いている。もっともそれらの多くは、西洋に既に存在した小説や伝説

の焼き直しと言った感じで、「作品」と言うよりは「習作」と言ったほうが近いのであるが、それでも芥川の文学史において一時代を成している。それが彼はその後、より詳しく言えば習作の段階を超える前に、キリスト教を脱退している。これはなぜであろうか。文学研究の中でも余り取り上げられない話題である。まず、彼の生きた時代、すなわち明治後期は、キリスト教が一種の流行になっていた時代であった。このころの多くの作家は、キリスト教に一度は入信するか、入信しないまでも西洋のキリスト教文学の習作を試みている。芥川の場合もそれと同列に、おそらくはキリスト教に救いを求めてではなく、自分の文学の成長のために入信したのであろう。ところが思ったほどにインスピレーションが得られず、これを脱退したものと思われる。芥川のような純日本文学を作風とする者にとって、キリスト教は所詮は接木にしかないのは、現在の冷静な見地からは明らかである。だから、芥川は棄教したのではなく、むしろちょっとした横道から本道に戻っただけの話なのである。以上総括すると、「なぜ芥川は棄教したのか」と聞くのは良い質問の仕方ではなく、むしろ、「なぜ芥川は一度は入信したのか」と尋ねるほうが、彼の文学によっぽど本質的である。

2004 年 09 月 04 日 17 時 56 分 00 秒

関電原発事故

先日関電の原発で、覆水規の戻り配管が破断して高温高压水がフラッシュし、4 人の死亡者を出した。破断箇所は二次系配管で放射能漏れの危険はないが、逆に放射能の危険がないため、点検が手薄になっていたと言う。配管が流れて減肉し、水圧に耐え切れず、瞬時に延性破断したとの見方が強い。配管は炭素鋼でできているので、LBB(破断前の予知的小漏洩)もなかった。同原発はあと1週間で定期検査に入るところで、その際取替え予定の配管だったと言うから(関電談)、その通りならあと一週間で死を招いたことになる。破断部位は火力発電にも共通してある部分で、その意味で原発に特有の事故ではないが、さすがに4人も亡くなつては、社長の引責辞任は避けられないだろう。ところで、作動流体が流れる配管の減肉現象は、腐食の有無に関わらずどうしても避けられないことであるが、一般に流れが乱流化するところで減肉しやすい。例えばL字に曲がった配管内を流体が流れるとして、どこが一番減肉しやすいと思うか。曲がり部で流れは向きを強

制的に変えられるから、その突き当たる部分（曲げの外向き側）ではないかと思うだろう。それがそうではない。流れの慣性力はその通りなのだが、その慣性力により、曲がり下部の内側部分に乱流（乱れ渦）ができ、この部分が一番減肉しやすいのである。今回の事件でも、オリフィスで流れを絞ったその下流で破断しているようである。

2004 年 09 月 03 日 17 時 54 分 05 秒

3日3月3年

今日の題目は、「新入社員が会社を辞めたくなる3つの危機時期」を述べた格言である。一見してばかばかしくて我慢がないと三日で辞める。もう少し我慢がある人は「三ヶ月は見てみよう」として、見た後辞める。もっと気の長い人は、3年も居て、その会社の裏も表も見て、もっと良い所があるんじゃないかと辞める。3年を過ぎると、「仕事なんてどこだって同じさ」と諦観に至って辞めないと言うのである。今年の新入社員諸君も今「3月」の中にある。

2004 年 09 月 02 日 17 時 52 分 57 秒

ある神父の死

昔小さな三面記事で読んだものだ。イタリアで、ある神父が、変装をしてお忍びの姿で、隣町のポルノ映画館のトイレの中で、心臓麻痺で死んでいるのが見つかったと言う。その神父がなぜそんなところに行ったのかは、分かっていないとのことだった。分かることはないだろうが、なんとなく醜聞くさい。神父とて人の子、しかもカトリックの神父は掟により、生涯結婚できない。でも人並みに欲はあるだろう。どうもご苦労さん。ところでイエスは「独身でいなさい」などとは一言も言っていない。独身の根拠は単にパウロの私見に過ぎない（パウロ書簡自体が私見の塊だが、「独身でいなさい」の部分は特に「私見ですが」と断っている）。こういう不自然な伝統をいつまでも守る必要があるのだろうか。もっとも神父が独身でいると言うことは、プロテスタ

ントの牧師には日常茶飯事の、「牧師のいじけた家族による嫌がらせ」という悪弊がない、という余禄はあるが。

2004 年 09 月 01 日 17 時 51 分 32 秒

